



Cisco Unity Connection 電話インターフェイスユーザガイド（リリース 10.x）

初版：2013年11月01日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2014 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

Cisco Unity Connection のユーザ登録 1

登録について 1

ユーザとしての登録 2

電話を使用した Cisco Unity Connection の操作 3

Connection のカンバセーションについて 3

Connection のカンバセーションでの電話のキーパッドの使用 4

Connection のカンバセーションでのボイス コマンドの使用 4

ボイスメールの基本 7

Cisco Unity Connection へのコール 7

ボイス メッセージの送信 8

電話のキーパッドを使用したボイス メッセージの送信 8

ボイス コマンドを使用したボイス メッセージの送信 9

メッセージの確認 10

電話のキーパッドを使用したメッセージの確認 11

ボイス コマンドを使用したメッセージの確認 11

メッセージへの返信 13

電話のキーパッドを使用したボイス メッセージへの返信 13

ボイス コマンドを使用したボイス メッセージへの返信 14

メッセージの転送 15

電話のキーパッドを使用したメッセージの転送 15

ボイス コマンドを使用したメッセージの転送 16

受信確認の管理 17

電話のキーパッドを使用した受信確認の管理 18

ボイス コマンドを使用した受信確認の管理 18

メッセージの検索 21

メッセージの検索について 21

メッセージ ロケータ オプションを使用したメッセージの検索 21

電話のキーパッドを使用したメッセージ ロケータでのメッセージの検索	22
Phone View オプションを使用したメッセージの検索	23
電話のキーパッドを使用した Phone View でのメッセージの検索	23
ボイス コマンドを使用した Phone View でのメッセージの検索	24
メッセージ ジャンプ オプションを使用したメッセージの検索	26
電話のキーパッドを使用したメッセージ ジャンプでのメッセージの検索	26
削除済みメッセージの管理	29
削除済みメッセージについて	29
削除済みメッセージの完全削除	29
電話のキーパッドを使用したメッセージの完全削除	30
ボイス コマンドを使用したメッセージの完全削除	30
削除済みメッセージの確認	30
電話のキーパッドを使用した削除済みメッセージの確認	31
ボイス コマンドを使用した削除済みメッセージの確認	31
ディスパッチ メッセージの管理	33
ディスパッチ メッセージについて	33
ディスパッチ メッセージへの応答	33
電話のキーパッドを使用したディスパッチ メッセージの管理	34
ボイス コマンドを使用したディスパッチ メッセージの管理	34
ボイス コマンドによる電話の発信	37
ボイス コマンドによる電話の発信について	37
ボイス コマンドによる電話の発信	37
会議の管理	39
会議の管理について	39
予定されている会議の一覧表示	39
電話のキーパッドを使用した予定されている会議の一覧表示	40
ボイス コマンドを使用した予定されている会議の一覧表示	40
Cisco Unified MeetingPlace での即時会議の開始	41
電話のキーパッドを使用した即時会議の開始	41
ボイス コマンドを使用した即時会議の開始	42
個人のグリーティングの管理	43
個人のグリーティングについて	43

現在のグリーティングの再録音	45
電話のキーパッドを使用した現在のグリーティングの再録音	45
電話でボイス コマンドを使用した現在のグリーティングの再録音	45
オプション グリーティングのオンまたはオフ	46
電話のキーパッドを使用したオプション グリーティングのオンまたはオフ	46
ボイス コマンドを使用したオプション グリーティングのオンまたはオフ	46
グリーティングの変更	47
電話のキーパッドを使用したグリーティングの変更	47
ボイス コマンドを使用したグリーティングの変更	48
すべてのグリーティングの再生	49
電話のキーパッドを使用したすべてのグリーティングの再生	49
ボイス コマンドを使用したすべてのグリーティングの再生	50
多言語システムでの追加言語のグリーティングの録音	50
電話のキーパッドを使用した追加言語のグリーティングの録音	50
ボイス コマンドを使用した追加言語のグリーティングの録音	51
Cisco Unity Connection のビデオ グリーティング	51
ビデオ グリーティングの録音	52
電話のキーパッドを使用したオプション ビデオ グリーティングのオンとオフの切り換え	52
メッセージ通知の管理	55
メッセージ通知について	55
デバイスへの通知のオンまたはオフ	55
電話のキーパッドを使用したデバイスへの通知のオンまたはオフ	56
ボイス コマンドを使用したデバイスへの通知のオンまたはオフ	56
通知先電話番号の変更	56
電話のキーパッドを使用した通知先電話番号の変更	57
ボイス コマンドを使用した通知先電話番号の変更	57
プライベート同報リストの管理	59
プライベート同報リストについて	59
プライベート同報リストの作成	59
電話のキーパッドを使用したプライベート同報リストの作成	60
ボイス コマンドを使用したプライベート同報リストの作成	60

プライベート同報リストのメンバーの変更	61
電話のキーパッドを使用したプライベート同報リストのメンバーの変更	61
ボイス コマンドを使用したプライベート同報リストのメンバーの変更	62
プライベート同報リストの録音名の変更	62
電話のキーパッドを使用したプライベート同報リストの録音名の変更	62
ボイス コマンドを使用したプライベート同報リストの録音名の変更	63
プライベート同報リストの削除	63
宛先指定優先リストの管理	65
宛先指定優先リストについて	65
宛先指定優先リストの変更	65
電話のキーパッドを使用した宛先指定優先リストの変更	66
ボイス コマンドを使用した宛先指定優先リストの変更	66
ユーザ設定の変更	67
ユーザ設定について	67
暗証番号の変更	67
電話キーパッドを使用した暗証番号の変更	68
ボイス コマンドを使用した暗証番号の変更	68
録音名の変更	68
電話のキーパッドを使用した録音名の変更	69
ボイス コマンドを使用した録音名の変更	69
ディレクトリ登録ステータスの変更	69
電話のキーパッドを使用したディレクトリ登録ステータスの変更	70
ボイス コマンドを使用したディレクトリ登録ステータスの変更	70
代行用デバイスの変更	70
電話キーパッドを使用した代行用デバイスの変更	71
ボイス コマンドを使用した代行用デバイスの変更	71
Connection Conversation メニュー スタイルの選択	73
Connection Conversation メニュー スタイルについて	73
Connection カンバセーションのメニュー スタイルの変更	73
電話のキーパッドを使用した Connection カンバセーションのメニュースタイルの 変更	74

ボイス コマンドを使用した Connection カンバセーションのメニュー スタイルの変更	74
着信転送ルールの管理	75
着信転送ルールについて	75
着信転送ルールに関する設定の変更	76
電話のキーパッドを使用した着信転送ルールの設定の変更	76
ボイス コマンドを使用した着信転送ルールの設定の変更	76
緊急連絡先番号の管理	79
緊急連絡先番号について	79
緊急連絡先番号の変更	79
電話のキーパッドを使用した緊急連絡先番号の指定	80
ボイス コマンドを使用した緊急連絡先番号の指定	80
着信コールを処理するパーソナル着信転送ルール セットの管理	81
パーソナル着信転送ルール セットについて	81
基本転送ルールにおけるパーソナル着信転送ルール セットの使用の有効化と無効化	82
電話のキーパッドを使用した基本転送ルールでのパーソナル着信転送ルール セットの使用の有効化または無効化	82
ボイス コマンドを使用した基本転送ルールでのパーソナル着信転送ルール セットの使用の有効化または無効化	82
パーソナル着信転送ルール セットの使用の有効化と無効化	83
電話のキーパッドを使用したパーソナル着信転送ルール セットの使用の有効化または無効化	83
ボイス コマンドを使用したパーソナル着信転送ルール セットの使用の有効化または無効化	83
個々のルール セットの有効化と無効化	84
電話のキーパッドを使用したルール セットの有効化	84
ボイス コマンドを使用したルール セットの有効化	85
電話のキーパッドを使用したルール セットの無効化	85
ボイス コマンドを使用したルール セットの無効化	85
すべて転送ルール セットの使用	86
電話のキーパッドを使用したすべて転送ルール セットの有効化	86
ボイス コマンドを使用したすべて転送ルール セットの有効化	87

電話のキーパッドを使用したすべて転送ルールセットの無効化	87
ボイス コマンドを使用したすべて転送ルールセットの無効化	87
すべての着信の Cisco Unity Connection への転送	88
電話のキーパッドを使用した Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送	88
ボイス コマンドを使用した Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送	88
電話のキーパッドを使用した Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送の キャンセル	89
ボイス コマンドを使用した Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送のキャン セル	89
再生の設定の変更	91
再生の設定について	91
個々のメッセージの再生音量の変更	91
電話のキーパッドを使用した個々のメッセージの再生音量の変更	92
ボイス コマンドを使用した個々のメッセージの再生音量の変更	92
個々のメッセージの再生速度の変更	92
電話のキーパッドを使用した個々のメッセージの再生速度の変更	93
ボイス コマンドを使用した個々のメッセージの再生速度の変更	93
Connection カンバセーションの再生音量の変更	93
ボイス コマンドを使用したカンバセーション再生音量の変更	94
Connection カンバセーションの再生速度の変更	94
ボイス コマンドを使用したカンバセーション再生速度の変更	94
ブロードキャスト メッセージ	95
ブロードキャスト メッセージについて	95
メールボックスのサイズの管理	97
メールボックス サイズについて	97
メールボックスがすぐに一杯になってしまう理由	97
Cisco Unity Connection の電話メニューとボイス コマンド	99
電話メニューとボイス コマンドテーブルについて	99
標準カンバセーション用電話メニュー	99
クラシック カンバセーション用電話メニュー	104
オプション カンバセーション 1 用電話メニュー	109
代行キーパッド マッピング N 用電話メニュー	114

代行キーパッド マッピング X 用電話メニュー 116

代行キーパッド マッピング S 用電話メニュー 119

ボイス コマンド 122



第 1 章

Cisco Unity Connection のユーザ登録

- [登録について, 1 ページ](#)
- [ユーザとしての登録, 2 ページ](#)

登録について

Cisco Unity Connection を使用するときには、まず、電話を使用してユーザ登録を行います。通常、Connection がセットアップされると、初めてシステムを呼び出したときに初回登録ガイダンスが再生されます。

初回登録ガイダンスは、あらかじめ録音された一連のプロンプトであり、このガイダンスに従って次のタスクを実行します。

- 名前を録音します。
- 電話に出られないときに外部発信者に流すグリーティングを録音します。
- 暗証番号を変更します。
- ディレクトリに登録するかどうかを選択します（ユーザがディレクトリに登録されていると、ユーザの内線番号を知らない発信者は、ユーザの名前を入力するか発音することによってユーザに到達できます）。

通常、Connection 管理者は、ID（通常はユーザの内線番号）と一時的な暗証番号を割り当てます。

登録が完了した後はいつでも、名前およびグリーティングを再録音でき、また、暗証番号の変更およびディレクトリ登録ステータスの変更ができます。

関連トピック

- [ユーザとしての登録, \(2 ページ\)](#)

ユーザとしての登録

手順

-
- ステップ 1** 社内の自分の電話、社内の別の電話、または社外の電話から該当する電話番号をダイヤルして、Cisco Unity Connection を呼び出します。
- ステップ 2** 社内の別の電話または社外の電話から電話している場合は、Connection の応答後、*（スターキー）を押してください。
- ステップ 3** プロンプトに従って対応します。登録時には、Connection のドキュメントを参照する必要はありません。登録処理が完了した場合は、システムからそのことが通知されます。登録が完了する前に電話を切った場合は、次回 Connection にログインすると、初回登録カンパセーションが再度再生されます。
-

関連トピック

[登録について, \(1 ページ\)](#)



第 2 章

電話を使用した Cisco Unity Connection の操作

- [Connection のカンバセーションについて, 3 ページ](#)
- [Connection のカンバセーションでの電話のキーパッドの使用, 4 ページ](#)
- [Connection のカンバセーションでのボイス コマンドの使用, 4 ページ](#)

Connection のカンバセーションについて

電話で Cisco Unity Connection にアクセスすると、Connection のカンバセーションが再生されます。メッセージの送受信、グリーティングの録音、個人設定の変更を行う際には、録音された指示とプロンプトに従います。Connection へのアクセスには、任意の電話を使用できます。

電話を介して Connection を使用方法には次の 2 つがあります。

電話のキーパッド	電話のキーパッドでキーを押します。 両手を空けておく必要がない場合、雑音が多い環境にいる場合、またはより多くの Connection 機能オプションを使用する場合は、このオプションを使用します。
ボイス コマンド	電話の受話器、ヘッドセット、またはスピーカーフォンに向かって発声します。 両手を空けた状態で Connection システムにアクセスする必要がある場合は、このオプションを使用します。



(注) 一部の TTY 電話（テキスト電話）には、適切なトーンを送信する機能が備わっていません。その場合、TTY ユーザは Connection のカンパセーションを操作する際に、電話のキーパッドを使用することが必要になる場合があります。

Connection のカンパセーションでの電話のキーパッドの使用

Connection のカンパセーションにはいくつかのバージョンがあり、それぞれ Connection メニューオプションとキーパッドのマッピングが異なります（たとえば、あるバージョンではメッセージを削除するのに 3 を押しますが、別のバージョンではメッセージを削除するのに 7 を押すことがあります）。

ユーザに対して再生されるカンパセーションのバージョンは、Connection 管理者が決定します。通常は、ユーザが使い慣れているキーパッドマッピングが設定されたカンパセーションを管理者が選択します。どのカンパセーションを使うよう設定されているかについては、Connection の管理者に問い合わせてください。

関連トピック

Connection のカンパセーションでのボイス コマンドの使用

Cisco Unity Connection には、Connection のカンパセーションで行う動作を音声で伝えることができる音声認識オプションがあります。ボイス コマンドは直感的であり、使いやすく、大部分のボイス メッセージ タスクに利用できます。

使用できるボイス コマンドについては、『*User Guide for the Cisco Unity Connection Phone Interface*』の手順を参照してください。また、任意の時点で「Help」と発音すると、各メニューについての詳細情報を入手できます。

メイン メニューで、「Tutorial」と発音すると、ボイス コマンドを使用した作業に関する一連のチュートリアルにアクセスできます。

カンパセーションの大部分において、コマンドを発音できます。システムのプロンプトが終了するまで待つ必要はありません。また、実行する作業を正確に把握している場合は、タスクを完了するためにメニュー階層を移動する必要はなく、複雑なコマンドを音声で伝えることができます。たとえば、メイン メニューで「Send a private and urgent message to Tina Chen」と発音します。

コマンドを音声で伝えにくい場合や、システムでコマンドが認識されない場合（雑音の多い環境で携帯電話を使用している場合など）は、残りのコマンドを使用するための電話キーパッドだけの使用に切り替えることができます。ボイス コマンドをオフにする場合は、「Touchtone conversation」と発音するか、メイン メニューの該当するキーを押します。Connection 管理者に

キーを問い合わせるか、「Touchtone command Help」と発音します。ボイス コマンドに戻るには、電話を切り、Connection に再度ログインします。

選択コマンドについては、ボイス コマンドをオフにせずに、該当するキーを押します。コマンドおよび対応するキーについては、Connection 管理者に問い合わせるか、「Touchtone command Help」と発音します。

音声認識オプションが使用可能かどうかについては、Connection 管理者に問い合わせてください。

関連トピック

[ボイス コマンド](#), (122 ページ)



第 3 章

ボイスメールの基本

- [Cisco Unity Connection へのコール, 7 ページ](#)
- [ボイス メッセージの送信, 8 ページ](#)
- [メッセージの確認, 10 ページ](#)
- [メッセージへの返信, 13 ページ](#)
- [メッセージの転送, 15 ページ](#)
- [受信確認の管理, 17 ページ](#)

Cisco Unity Connection へのコール

Cisco Unity Connection は、社内の自分専用の電話、社内の別の電話、または社外の電話から呼び出すことができます。

手順

- ステップ 1** 適切な電話番号をダイヤルして Connection を呼び出します。
 - ステップ 2** 社内の別の電話または社外の電話から電話している場合は、Connection の応答後、* (スターキー) を押してください。
 - ステップ 3** 指示に従って ID を入力し、# (ポンドキー) を押します。
 - ステップ 4** Connection 暗証番号を入力し、# を押します。
(注) 音声認識オプションを使用している場合は、Connection で暗証番号を発音で入力するか、電話のキーパッドで入力するかを尋ねられる場合があります。暗証番号を発音で入力するには、1 桁ずつ発音します。1 回目の試みで Connection が暗証番号を認識できない場合は、キーパッドで暗証番号を入力する必要があります (セキュリティ上の理由により、暗証番号は音声で入力するよりも電話のキーパッドで入力する方が安全ですが、このオプションはいつでも使用できます)。
-

ボイスメッセージの送信

改訂：2010年11月16日

ボイスメッセージは、内線番号をダイヤルすることなく、他の Cisco Unity Connection ユーザに送信できます。相手の邪魔をしたくない場合や、電話で会話をする時間がない場合は、ボイスメッセージを使用すると便利です。また、ボイスメッセージは、電子メールで伝わりにくい用件を伝達する場合にも役立つことがあります。

ボイスメッセージでは、1人または複数の受信者、プライベート同報リスト、およびシステム同報リストを宛先として指定できます。メッセージの宛先を指定するには、使用する入力方法に応じて、Connection ユーザまたは同報リストの名前を発音するか、電話のキーパッドを使用してユーザまたはリストの名前、あるいは内線番号またはリスト番号を入力します。

次の特別な送信オプションが利用できます。

緊急	メッセージに緊急のマークを付けて、Connection がそのメッセージを通常メッセージの前に送信するようにします。
返信確認	返信確認を要求して、受信者がメッセージを開いたときに Connection が発信者に通知するようにします。 (注) 受信者および自身のボイスメールアカウントの設定に応じて、要求に対して返信確認を受け取る/受け取らないように設定できます。返信確認を受け取る場合は、ボイスメールアカウントの設定に応じて、開封確認または送信確認が可能です。
プライベート	メッセージをプライベートにして、受信者にメッセージを機密情報として取り扱う必要があることを通知します。Connection ユーザはプライベートメッセージを電話で転送できません。
将来の配信	指定した将来の日時にメッセージを配信します。

電話のキーパッドを使用したボイスメッセージの送信

手順

-
- ステップ1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ2 メインメニューで、[メッセージを送信] オプションを選択します。
 - ステップ3 プロンプトに従って、メッセージの録音、宛先指定、および送信を行います。録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押します。

- ヒント
- メッセージの宛先を指定するには、## を押してスペリングと番号のエントリを切り替えます。
 - メッセージの宛先をプライベート同報リストに指定するには、番号エントリを利用してリスト番号を入力します。または **Messaging Assistant Web** ツールのリストに表示名がある場合、スペリング エントリを利用して名前をスペリングします。
 - アドレス エントリに一致するユーザが複数ある場合、**Connection** はすばやく操作できるように一致するリストを再生します。リストから受信者を選択するには # を押します。前の名前に戻るには 7 を押します。次の名前に進むには 9 を押します。リストの先頭に戻るには 77 を押します。リストの最後に進むには 99 を押します。

ボイス コマンドを使用したボイス メッセージの送信

手順

- ステップ 1** コールをして **Connection** にログインします。
- ステップ 2** **Connection** で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Send a message」。
- ヒント 録音する前にメッセージの宛先を設定する場合や、メッセージプロパティを指定する場合は、ここで発音します。例：「Send an urgent message to Tim Smith」または「Send a private message」。
- ステップ 3** メッセージを録音します。終了後、# を押すか、数秒間無音の状態にします。録音を一時停止または再開するには、8 を押します。
- ステップ 4** 指示に従って、メッセージ受信者の名前を発音します。
Connection が意図しない受信者を追加した場合は、「Remove」と発音して最後に追加された受信者を削除するか、「Edit recipients」と発音して他の受信者を削除します。
メッセージの作成が完了したら、「Done」と発音します。
- ヒント
- すばやく宛先を指定するには、**Connection** による確認メッセージが終了する前に、次の受信者の名前を発音します。
 - 受信者を追加するために一時的に電話のキーパッドを使用するように切り替えるには、9 を押します。受信者を追加すると、**Connection** は音声認識モードに戻ります。
- ステップ 5** 指示に従い、次のボイス コマンドを使用してメッセージを終了します。

アクション	ボイス コマンド
メッセージを送信する	「Send」

アクション	ボイス コマンド
メッセージ受信者のリストを確認または編集する	「Edit recipients」
他の受信者を追加する	「Add names」
録音されたメッセージを編集する	「Change recording」
メッセージのプロパティを確認する	「Review message properties」
メッセージに緊急のマークを付ける	「Mark urgent」
メッセージにプライベートのマークを付ける	「Mark private」
メッセージに緊急およびプライベートのマークを付ける	「Mark urgent and private」
メッセージに返信確認を設定する	「Return receipt」
将来の日時にメッセージを配信する メッセージをいつ配信すればよいかを Connection で尋ねられたら、「Today」、「Tomorrow」、曜日、または暦日と時刻を発音します。将来の配信キューにメッセージを入れる準備ができたなら、「Send」と発音する必要があります。	「Future delivery」
将来の配信をキャンセルする	「Cancel future delivery」
録音されたメッセージおよびメッセージプロパティを確認する	「Review message」

メッセージの確認

改訂：2010年11月16日

電話を使用して、Cisco Unity Connection メールボックスの新規メッセージと開封済みメッセージ、電子メールアプリケーションのメッセージを確認できます。

メッセージは、メッセージの再生中に、またはメッセージ全体を聞き終えた後で保存または削除できます。

メッセージ保存ポリシーを適用するようにシステムが設定されているかどうかを Connection の管理者に確認し、そのように設定されている場合は、メッセージが完全に削除されるまでの期間を確認してください（Connection は、メッセージ保存ポリシーが適用されることを通知しません。また、このポリシーを実行した結果、メッセージが完全に削除されることも警告しません）。

電話のキーパッドを使用したメッセージの確認

手順

- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** メイン メニューで該当するメニュー オプションを選択します。

オプション	説明
[新規メッセージを再生] または [古いメッセージを確認]	Connection メールボックスのメッセージが対象
[外部電子メール メッセージ]	電子メールアプリケーションのメッセージが対象

- ステップ 3** プロンプトに従って、メッセージを聞いて処理します。

ボイス コマンドを使用したメッセージの確認

手順

- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Play Messages」。Connection によって Connection メールボックスにある新規メッセージと開封済みメッセージの合計数が通知され、すべての新規ボイス メッセージ、電子メール、受信者が再生されます。その後に開封済みのメッセージが再生されます。

または

聞きたいメッセージのタイプを選択するには、次のコマンドを使用します。

アクション	ボイス コマンド
新規および開封済みのボイス メッセージ、電子メール、外部メッセージ、または受信確認を再生する (Connection の設定によっては、一部のタイプの受信確認を受け取ることができない)	「Play <voice messages/emails/external messages/receipts>」
すべての新規メッセージを再生する	「Play new messages」

アクション	ボイス コマンド
Connection ユーザからの新しいボイス メッセージ、開封済みボイス メッセージ、または削除済みボイス メッセージを再生する	「Play <new/saved/deleted> messages from <name of user>」
開封済みのボイス メッセージ、電子メール、外部メッセージ、または受信確認を再生する (Connection の設定によっては、一部のタイプの受信確認を受け取ることができない)	「Play saved <voice messages/emails/external messages/receipts>」
すべての開封済みメッセージを再生する	「Play saved messages」
削除済みのボイス メッセージ、電子メール、または受信確認を再生する (Connection の設定によっては、一部のタイプの受信確認を受け取ることができない)	「Play deleted <voice messages / emails / receipts>」
削除済みメッセージをすべて再生する (一部のシステムでは使用不可)	「Play deleted messages」

ステップ 3 メッセージの聞き取り後にメッセージを管理するには、指示に従って次のボイス コマンドを使用します。

アクション	ボイス コマンド
再度メッセージを再生する	「Repeat」
前のメッセージを再生する	「Previous」
次のメッセージを再生する	「Next」
開封済みメッセージとして保存/復元する	「Save」
メッセージを削除する	「Delete」
メッセージへ返信する	「Reply」
全員に返信する	「Reply all」
元のメッセージを再送する (不達確認に限る)	「Resend」
メッセージの送信者を呼び出す (一部のシステムでは使用不可)	「Call sender」
メッセージを転送する	「Forward」

アクション	ボイス コマンド
未開封メッセージとして保存/復元する	「Mark new」
メッセージを巻き戻しする	なし
印刷のためにファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	「Fax」
メッセージプロパティを再生する	「Message properties」

メッセージへの返信

メッセージに返信する場合は、送信者だけに返信するか、送信者および他のすべての受信者に返信するかを選択できます。また、受信者を追加することもできます。元のメッセージを再送信することによって、不達確認（NDR）メッセージに返信することもできます。

「Cisco Unity Connection Messaging System」からのメッセージは、発信者が Connection ユーザでないか、またはメッセージを残したときにユーザとしてログインしていなかったことを意味します。そのような発信者からのメッセージには返信できません。

電話のキーパッドを使用したボイス メッセージへの返信

手順

ステップ 1 メッセージの再生後、[返信] または [全員に返信] メニュー オプションを選択します。

ステップ 2 指示に従って、録音、受信者の追加、返信を行います。
録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押します。

- ヒント**
- メッセージの宛先を指定するには、## を押してスペリングと番号のエントリを切り替えます。
 - メッセージの宛先をプライベート同報リストに指定するには、番号エントリを利用してリスト番号を入力します。または **Messaging Assistant Web** ツールのリストに表示名がある場合、スペリング エントリを利用して名前をスペリングします。
 - アドレス エントリに一致するユーザが複数ある場合、Connection はすばやく操作できるように一致するリストを再生します。リストから受信者を選択するには # を押します。前の名前に戻るには 7 を押します。次の名前に進むには 9 を押します。リストの先頭に戻るには 77 を押します。リストの最後に進むには 99 を押します。

ステップ 3 返信後、指示に従って元のメッセージを処理します。

ボイス コマンドを使用したボイス メッセージへの返信

手順

- ステップ 1** メッセージの聞き取り後、次のように言います。
送信者に返信するには、「Reply」と発音します。
または
送信者およびすべてのメッセージ受信者に返信するには、「Reply All」と発音します。
- ステップ 2** 返信を録音します。録音を一時停止または再開するには、8 を押します。
終了後、# を押すか、数秒間無音の状態にします。
- ステップ 3** 指示に従って、次のボイス コマンドを使用して返信を終了します。

アクション	ボイス コマンド
メッセージを送信する	「Send」
メッセージ受信者のリストを確認または編集する	「Edit recipients」
他の受信者を追加する	「Add names」
録音されたメッセージを編集する	「Change recording」
メッセージのプロパティを確認する	「Review message properties」
メッセージに緊急のマークを付ける	「Mark urgent」
メッセージにプライベートのマークを付ける	「Mark private」
メッセージに緊急およびプライベートのマークを付ける	「Mark urgent and private」
メッセージに返信確認を設定する	「Return receipt」
将来の日時にメッセージを配信する メッセージをいつ配信すればよいかを Connection で尋ねられたら、「Today」、「Tomorrow」、曜日、または暦日と時刻を発音します。将来の配信キューにメッセージを入れる準備ができたなら、「Send」と発音する必要があります。	「Future delivery」
将来の配信をキャンセルする	「Cancel future delivery」

アクション	ボイス コマンド
録音されたメッセージおよびメッセージプロパティを確認する	「Review message」

ステップ 4 返信後、指示に従って元のメッセージを処理します。

メッセージの転送

プライベートとしてマークされたメッセージは電話機で転送できません。このメッセージには、Connection ユーザがプライベートのマークを付けたボイス メッセージも含まれます。

電話のキーパッドを使用したメッセージの転送

手順

ステップ 1 メッセージの再生後、[メッセージを転送] オプションを選択します。

ステップ 2 指示に従って、音声コメントの録音、宛先の指定、転送されたメッセージの送信を行います。録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押します。

- ヒント**
- メッセージの宛先を指定するには、## を押してスペリングと番号のエントリを切り替えます。
 - メッセージの宛先をプライベート同報リストに指定するには、番号エントリを利用してリスト番号を入力します。または **Messaging Assistant Web** ツールのリストに表示名がある場合、スペリング エントリを利用して名前をスペリングします。
 - アドレス エントリに一致するユーザが複数ある場合、Connection はすばやく操作できるように一致するリストを再生します。リストから受信者を選択するには # を押します。前の名前に戻るには 7 を押します。次の名前に進むには 9 を押します。リストの先頭に戻るには 77 を押します。リストの最後に進むには 99 を押します。

ステップ 3 転送するメッセージを送信後、指示に従って元のメッセージを処理します。

ボイス コマンドを使用したメッセージの転送

手順

- ステップ 1** メッセージの再生後、「Forward」と発音します。
- ステップ 2** 必要に応じて、転送するメッセージに音声コメントを録音します。録音を一時停止または再開するには、8を押します。
終了後、#を押すか、数秒間無音の状態にします。
- ステップ 3** 指示に従って、メッセージ受信者の名前を発音します。
Connection が意図しない受信者を追加した場合は、「Remove」と発音して最後に追加された受信者を削除するか、「Edit recipients」と発音して他の受信者を削除します。
メッセージの作成が完了したら、「Done」と発音します。
- ヒント**
- すばやく宛先を指定するには、Connection による確認メッセージが終了する前に、次の受信者の名前を発音します。
 - 受信者を追加するために一時的に電話のキーパッドを使用するように切り替えるには、9を押します。受信者を追加すると、Connection は音声認識モードに戻ります。
- ステップ 4** 指示に従って、次のボイス コマンドを使用して転送メッセージを終了します。

アクション	ボイス コマンド
メッセージを送信する	「Send」
メッセージ受信者のリストを確認または編集する	「Edit recipients」
他の受信者を追加する	「Add names」
録音されたメッセージを編集する	「Change recording」
メッセージのプロパティを確認する	「Review message properties」
メッセージに緊急のマークを付ける	「Mark urgent」
メッセージにプライベートのマークを付ける	「Mark private」
メッセージに緊急およびプライベートのマークを付ける	「Mark urgent and private」
メッセージに返信確認を設定する	「Return receipt」
将来の日時にメッセージを配信する メッセージをいつ配信すればよいかを Connection で尋ねられたら、「Today」、「Tomorrow」、曜日、または暦日と時刻	「Future delivery」

アクション	ボイス コマンド
を発音します。将来の配信キューにメッセージを入れる準備ができたなら、「Send」と発音する必要があります。	
将来の配信をキャンセルする	「Cancel future delivery」
録音されたメッセージおよびメッセージプロパティを確認する	「Review message」

ステップ 5 転送するメッセージを送信後、指示に従って元のメッセージを処理します。

受信確認の管理

改訂：2010年11月16日

Cisco Unity Connection を使用するときには、次のタイプの受信確認を管理できます。

開封	受信者がメッセージを再生すると、通知される受信確認メッセージ。
送信	メッセージを目的の受信者に送信した場合に、通知される受信確認メッセージ。
不達	メッセージを目的の受信者に送信できなかった場合に、通知される受信確認メッセージ。

Connection の電話インターフェイスでは、返信確認のみ要求できますが、電子メールアプリケーションを使用すると、開封確認または送信確認を要求できます。受信者および自身のボイスメールアカウントの設定に応じて、要求に対して受信確認を受け取る/受け取らないように設定することに注意してください。受信要求に対して受信確認を受け取る場合は、ボイスメールアカウントの設定に応じて、開封確認または送信確認が可能です。

メッセージを確認する場合、Connection はその他のメッセージとともに受信確認を再生します。他のメッセージと同じ方法で受信確認を再生して削除します。返信または転送はできません。

開封確認では、送信したメッセージを再生した受信者のリストが Connection によって再生されません。不達確認 (NDR) では、Connection によって、メールボックスでメッセージを受け入れなかった受信者が示されます。

Connection が NDR を再生した後は、元のメッセージを再生し、それを受信できなかった受信者に再送できます。メッセージを再送するときに、コメントを録音したり、受信者リストを変更したり、送信オプションを変更したりすることができます。メッセージを再送すると、自動的に Connection によって NDR が削除されます。

電話のキーパッドを使用した受信確認の管理

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 メインメニューで、[新規メッセージを再生]、[開封確認] オプションの順に選択します。
 - ステップ 3 指示に従って、受信確認を管理します。
-

ボイス コマンドを使用した受信確認の管理

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Play Receipts」。この場合、Connection は、受信確認の合計数を通知してから、受信確認を再生します。
または
「Play <new/saved/deleted> receipts」。この場合、Connection は、基準を満たす受信確認の数を通知してから、受信確認を再生します。
 - ステップ 3 受信確認の聞き取り後に受信確認を管理するには、指示に従って次のボイス コマンドを使用します。

アクション	ボイス コマンド
再度受信確認を再生する	「Repeat」
開封済みメッセージとして保存/復元する	「Save」
受信確認を削除する	「Delete」
元のメッセージを再送する (NDR に限る)	「Resend」
未開封メッセージとして保存する	「Mark new」
受信確認を巻き戻す	(利用できないコマンド)
受信確認プロパティを再生する	「Message properties」
元のメッセージを再生する (NDR に限る)	「Play original message」



第 4 章

メッセージの検索

- [メッセージの検索について](#), 21 ページ
- [メッセージ ロケータ オプションを使用したメッセージの検索](#), 21 ページ
- [Phone View オプションを使用したメッセージの検索](#), 23 ページ
- [メッセージ ジャンプ オプションを使用したメッセージの検索](#), 26 ページ

メッセージの検索について

Cisco Unity Connection には、電話でメッセージを検索するためのオプションが 3 つあります。

[メッセージ ロケータ]	検索基準に基づいて、新しいボイスメッセージおよび開封済みボイスメッセージを検索できます。
[Phone View]	検索基準に基づいて、新しいボイスメッセージおよび開封済みボイスメッセージを検索でき、結果は Cisco IP Phone の画面に表示されます。
[メッセージへの移動]	メッセージ番号に基づいて、開封済みメッセージを検索できます。

これらのオプションの一部は使用できない場合があります。Connection 管理者に問い合わせてください。

メッセージロケータオプションを使用したメッセージの検索

メッセージロケータでは、ユーザ名または内線番号を入力することにより、特定のユーザからのボイスメッセージを検索します。また、外部からのすべての発信者のボイスメッセージや、特定の番号からかけた発信者のメッセージを検索することもできます。

入力する条件に基づいて、Cisco Unity Connection はメッセージが検出されると、再生を開始します。デフォルトでは、メッセージは、新しいか開封済みかにかかわらず、新しいものから順に示されます。ただし、Connection の管理者がこの再生順序を変更する場合があります。

電話のキーパッドを使用したメッセージロケータでのメッセージの検索

手順

- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** ボイス コマンドを使用していない場合は、ステップ 3 に進みます。
ボイスコマンドを使用している場合は、「Touchtone conversation」と発音するか、9を押して、入力方法を一時的に電話のキーパッドに切り替えます。
- ヒント** メッセージロケータの使用後に入力方法をボイス コマンドに戻すには、電話を切り、Connection に再度ログインします。
- ステップ 3** メインメニューで、[メッセージの検索] オプションを選択します。
- ステップ 4** 探しているボイスメッセージを検索して管理するには、適切なオプションを選択して指示に従います。

オプション	説明
[別のボイスメールユーザからのメッセージを表示する]	指示に従って、電話のキーパッドでユーザ名またはユーザの内線番号を入力します。名前を入力と番号の入力を切り替えるには、##を押します。
[外線の発信者からのメッセージをすべて表示する]	Connection は、身元不明発信者からのメッセージを検索します。これには、外部からの発信者と、外部の電話またはユーザアカウントに関連付けられていない電話（会議室など）からかける前に Connection にログインしていないユーザが含まれます。
[特定の外線からのメッセージを表示する]	指示に従い、電話のキーパッドを使用して発信者の電話番号をすべてまたは一部入力し、その後 # を付けます。 (注) 一部の発信者の電話番号の先頭には、国コードや市外局番などが追加されている場合があります。すべての発信者の番号がシステムに保存されているとは限りません。特定の発信者からのメッセージが見つからない場合は、Connection 管理者に問い合わせてください。

Phone View オプションを使用したメッセージの検索

Phone View を使用すると、Cisco IP Phone の画面にボイス メッセージの送信者、日付、時刻が表示されます。検索条件を入力すると、選択されたボイス メッセージが電話の画面に表示されます。デフォルトでは、メッセージは、新しいか開封済みかにかかわらず、新しいものから順に掲載されます。ただし、Connection の管理者がこの再生順序を変更する場合があります。

電話のキーパッドを使用した Phone View でのメッセージの検索

手順

- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** メイン メニューで、[メッセージの検索] オプションを選択します。
- ステップ 3** 探しているボイス メッセージを検索するには、適切なオプションを選択して指示に従います。

オプション	説明
[新しいメッセージを全て表示する]	まだ聞いていないボイス メッセージが Connection によって表示されます。
[すべてのメッセージ]	Connection によって新しいメッセージおよび開封済みメッセージがすべて表示されます。
[別のボイスメールユーザからのメッセージを表示する]	指示に従って、電話のキーパッドでユーザ名またはユーザの内線番号を入力します。名前を入力と番号の入力を切り替えるには、## を押します。
[外線の発信者からのメッセージをすべて表示する]	Connection は、身元不明発信者からのメッセージを検索します。これには、外部からの発信者と、外部の電話またはユーザアカウントに関連付けられていない電話（会議室など）からかける前に Connection にログインしていないユーザが含まれます。
[特定の外線からのメッセージを表示する]	指示に従い、電話のキーパッドを使用して発信者の電話番号をすべてまたは一部入力し、その後 # を付けます。 一部の発信者の電話番号の先頭には、国コードや市外局番などが追加されている場合があります。すべての発信者の番号がシステムに保存されているとは限りません。特定の発信者からのメッセージが見つからない場合は、Connection 管理者に問い合わせてください。

- ステップ 4** メッセージリストが電話の画面に表示された後、Connection によって再生されるメッセージを選択するには、次のソフト キーを使用します。

オプション	説明
[選択]	選択されたメッセージの再生を開始します。
[次へ]	該当する場合に、メッセージの次のページに移動します。
[前へ]	該当する場合に、メッセージの前のページに移動します。
[次へ]	[移行先] ソフト キーと [終了] ソフト キーを表示します。このキーは、最大 4 つのソフト キーを表示する電話機にのみ表示されます。
[移行先]	電話のキーパッドを使用してメッセージ番号を入力できる画面が表示され、そのメッセージを選択することでそのメッセージにスキップします。
[終了]	表示されているメッセージリストの再生を終了します。これによって Connection の検索条件プロンプトに戻ります。

ステップ 5 プロンプトに従って、メッセージを聞いて処理します。

ボイス コマンドを使用した Phone View でのメッセージの検索

手順

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、適切なボイス コマンドを使用して、電話の画面に表示するメッセージのタイプを選択します。

アクション	ボイス コマンド
新規および開封済みのボイスメッセージまたは受信確認を表示する	「Show <voice messages/receipts>」
すべての新規ボイス メッセージを表示する	「Show new messages」
Connection ユーザからの新しいボイスメッセージ、開封済みボイスメッセージ、または削除済みボイスメッセージをすべて表示する	「Show <new/saved/deleted> messages from <name of user>」
開封済みのボイスメッセージまたは受信確認を表示する	「Show saved <voice messages/receipts>」
開封済みのボイス メッセージをすべて表示する	「Show saved messages」

アクション	ボイス コマンド
削除済みボイス メッセージまたは受信確認を表示する	「Show deleted <voice messages /receipts>」
削除済みボイス メッセージをすべて表示する (一部のシステムでは使用不可)	「Show deleted messages」

ステップ 3 メッセージリストが電話の画面に表示された後、Connection によって再生されるメッセージを選択するには、次のソフト キーを使用します。

オプション	説明
[選択]	選択されたメッセージの再生を開始します。
[次へ]	該当する場合に、メッセージの次のページに移動します。
[前へ]	該当する場合に、メッセージの前のページに移動します。
[次へ]	[移行先] ソフト キーと [終了] ソフト キーを表示します。このキーは、最大 4 つのソフト キーを表示する電話機にのみ表示されます。
[移行先]	電話のキーパッドを使用してメッセージ番号を入力できる画面が表示され、そのメッセージを選択することでそのメッセージにスキップします。
[終了]	表示されているメッセージリストの再生を終了します。これによって Connection の検索条件プロンプトに戻ります。

ステップ 4 メッセージの聞き取り後にメッセージを管理するには、次のボイス コマンドを使用します。

アクション	ボイス コマンド
再度メッセージを再生する	「Repeat」
前のメッセージを再生する	「Previous」
次のメッセージを再生する	「Next」
開封済みメッセージとして保存/復元する	「Save」
メッセージを削除する	「Delete」
メッセージへ返信する	「Reply」
全員に返信する	「Reply all」
元のメッセージを再送する (不達確認に限る)	「Resend」

アクション	ボイス コマンド
メッセージの送信者を呼び出す (一部のシステムでは使用不可)	「Call sender」
メッセージを転送する	「Forward」
未開封メッセージとして保存/復元する	「Mark new」
メッセージを巻き戻しする	なし
印刷のためにファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	「Fax」
メッセージ プロパティを再生する	「Message properties」

メッセージ ジャンプ オプションを使用したメッセージの検索

メッセージを聞く際、メッセージ ジャンプ オプションを使用して、メッセージの番号を入力することによって特定のメッセージを検索できます。

電話のキーパッドを使用したメッセージ ジャンプでのメッセージの検索

手順

- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2 ボイス コマンドを使用していない場合は、ステップ 3 に進みます。
ボイス コマンドを使用している場合は、「Touchtone conversation」と発音するか、9を押して、入力方法を一時的に電話のキーパッドに切り替えます。
ヒント ジャンプ メッセージの使用後に入力方法をボイス コマンドに戻すには、電話を切り、Connection に再度ログインします。
- ステップ 3 メイン メニューで、適切なメニュー オプション ([新規メッセージを再生] または [古いメッセージを確認]) を選択します。
- ステップ 4 メッセージ ジャンプ ショートカット キーを押します。

ヒント メッセージ番号を入力するプロンプトを再生するためのショートカット キーについては、**Connection** 管理者に問い合わせてください。

ステップ 5 指示に従ってメッセージ番号を入力し、その後に # を入力します。

ステップ 6 プロンプトに従って、再生したメッセージを処理します。



第 5 章

削除済みメッセージの管理

- [削除済みメッセージについて, 29 ページ](#)
- [削除済みメッセージの完全削除, 29 ページ](#)
- [削除済みメッセージの確認, 30 ページ](#)

削除済みメッセージについて

Cisco Unity Connection では、削除済みメッセージが保存されます。これらのメッセージは再生、復元、または完全に削除することができます。

削除済みメッセージの完全削除

メッセージの削除は、特に Cisco Unity Connection が一定時間の経過後にメッセージを自動的に削除するように設定されていない場合、メールボックスのサイズを削減できる重要な手段です。

メッセージ保存ポリシーを適用するようにシステムが設定されているかどうかを、Connection の管理者に確認してください。Connection は、メッセージ保存ポリシーが適用されることを通知しません。また、このポリシーを実行した結果、メッセージが完全に削除されることも警告しません。Connection に保存ポリシーが設定されていない場合は、定期的にメッセージを完全に削除してください。

関連トピック

電話のキーパッドを使用したメッセージの完全削除

手順

-
- ステップ1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ2 メインメニューで、[古いメッセージを確認]、[削除済みメッセージ] オプションの順に選択します。
 - ステップ3 指示に従って、削除済みメッセージの確認と削除を個別に行うか、すべてのメッセージを同時に削除します。
-

ボイス コマンドを使用したメッセージの完全削除

手順

-
- ステップ1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ2 Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。削除されたすべてのメッセージを完全に削除するには、「Empty Deleted Items folder」と発音します。Connection によってアクションの確認を求められたら、「Yes」と発音します。
または
メッセージを1つずつ完全に削除するには、「Play deleted messages」と発音します。メッセージを聞き取った後にそのメッセージを完全に削除するには、「Delete」と発音します。現在のメッセージを削除しないで次のメッセージにスキップするには、「Next」と発音します。
-

削除済みメッセージの確認

削除済みメッセージは、新しいメッセージや開封済みメッセージと同様に、再生できます。また、削除済みメッセージは、新しいメッセージまたは開封済みメッセージとして復元することもできます。

デフォルトでは、最も新しいメッセージが最初に再生されます。削除済みメッセージでは、メッセージタイプメニューを使用可能にしたり、タイプによって再生順序を指定したりできないことに注意してください。

電話のキーパッドを使用した削除済みメッセージの確認

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 メイン メニューで、[古いメッセージを確認]、[削除済みメッセージ] オプションの順に選択します。
 - ステップ 3 プロンプトに従って、再生した削除済みメッセージを処理します。
 - ステップ 4 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

例：

Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

ボイス コマンドを使用した削除済みメッセージの確認

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
削除済みメッセージをすべて再生するには、「Play deleted messages」と発音します。
または
特定の Connection ユーザからの削除済みボイス メッセージを再生するには、「Play deleted messages from <name of user>」と発音します。
または
特定のタイプの削除済みボイス メッセージを再生するには、「Play deleted <voice messages/emails/receipts>」と発音します（Connection は、テキスト/スピーチ オプションを持つ ユーザについてだけ電子メールを再生します）。
 - ステップ 3 聞き取り後に削除されたメッセージを管理するには、指示に従って次のボイス コマンドを使用します。

アクション	ボイス コマンド
再度メッセージを再生する	「Repeat」
前のメッセージを再生する	「Previous」

アクション	ボイス コマンド
次のメッセージを再生する	「Next」
開封済みメッセージとして復元する	「Saved」
メッセージを完全に削除する	「Delete」
メッセージへ返信する	「Reply」
メッセージの送信者を呼び出す (一部のシステムでは使用不可)	「Call sender」
メッセージを転送する	「Forward」
未開封メッセージとして復元する (一部のシステムでは使用不可)	「Mark new」
メッセージ プロパティを再生する	「Message properties」



第 6 章

ディスパッチ メッセージの管理

- ・ [ディスパッチ メッセージについて](#), 33 ページ
- ・ [ディスパッチ メッセージへの応答](#), 33 ページ

ディスパッチ メッセージについて

ディスパッチメッセージは、問題に回答可能なユーザの同報リストに送信されます。ディスパッチメッセージに回答する必要があるユーザは1人だけです。Cisco Unity Connection がディスパッチメッセージを再生した後、次のオプションを提供します。

[メッセージを受信]	このオプションを選択したユーザは、メッセージを承諾する同報リストの唯一のメンバーであることを意味します。他のすべての受信者がメッセージを聞いたかどうかにかかわらず、メッセージのコピーは他のすべての受信者のメールボックスから削除されます。
[メッセージを辞退]	このオプションを選択したユーザのメールボックスからはメッセージが削除されますが、まだメッセージを拒否してない他の受信者のメールボックス内ではそのメッセージのコピーが未開封のまま残ります。 (注) 他のすべての受信者がディスパッチメッセージを拒否した場合は、最後の1人のユーザがディスパッチメッセージを受信する必要があります。最後の1人のユーザはメッセージを拒否できません。
[メッセージを延期]	このオプションを選択したユーザとまだメッセージを拒否してない他の受信者のメールボックスには、メッセージが未開封のまま残ります。

ディスパッチ メッセージへの応答

ディスパッチメッセージへの応答に関する考慮事項は次のとおりです。

- 自分がディスパッチメッセージを受け入れる前に、他の受信者がディスパッチメッセージを受け入れると、自分のメールボックスからはメッセージのコピーが削除されます。
- ディスパッチメッセージを拒否した場合、そのディスパッチメッセージは Cisco Unity Connection によって削除済みアイテム フォルダに移動されません。
- ディスパッチメッセージが届くと、電話のメッセージ受信インジケータが点灯する場合があります。他の受信者がディスパッチメッセージを受け入れた場合、Connection によって自分のメールボックスからメッセージが削除された後に、インジケータが消灯します。メッセージが削除されてからインジケータが消灯するまでの間には時間差が発生する場合があります。インジケータに気付いた後に新しいメッセージが見つからない場合は、この時間差の間にチェックしたことが原因である可能性があります。
- ディスパッチメッセージを含めるようにメッセージ通知ルールを設定している場合、通知を受け取り、メッセージを取得するためにコールするまでには、別のユーザがすでにメッセージを受け入れているために、このメッセージがユーザのメールボックスから削除されている可能性があることに注意してください。

関連トピック

[ディスパッチメッセージについて, \(33 ページ\)](#)

電話のキーパッドを使用したディスパッチメッセージの管理

手順

ディスパッチメッセージを再生した後、指示に従ってメッセージを受信するか、拒否するか、先送りにします。

ボイス コマンドを使用したディスパッチメッセージの管理

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Play dispatch messages」。
 - ステップ 3** ディスパッチメッセージを再生した後、指示に従い、次のボイスコマンドを使用してメッセージに応答します。

アクション	ボイス コマンド
メッセージを受信する	「Accept」

アクション	ボイス コマンド
メッセージを拒否する	「Decline」
メッセージを先送りする	「Postpone」



第 7 章

ボイス コマンドによる電話の発信

- [ボイス コマンドによる電話の発信について, 37 ページ](#)
- [ボイス コマンドによる電話の発信, 37 ページ](#)

ボイス コマンドによる電話の発信について

個人名、電話番号、あるいは内線番号を発音することで、連絡先または別の Cisco Unity Connection ユーザに電話を発信できます。

たとえば、「Call Harriet Smith」と発音すると、Connection が Harriet の内線番号を企業ディレクトリで検索し、電話を発信します。「Call Mom at home」と発音すると、Connection は連絡先リストの母親の自宅の電話番号を検索して、電話を発信します。

ボイス コマンドを使用して電話を発信する場合は、Connection にログインする必要があります。この機能は、メッセージの確認時や、電話を発信する場合や折り返し電話をする場合に便利です。

名前、電話番号、または内線番号を発音すると、一致する名前または番号が Connection によって再生され、電話が発信されます。要求された名前または番号に一致するものが複数検出された場合、Connection は、最初に一致したものを再生し、一致内容が正しいかどうかを確認するようユーザに要求します。正しくない場合は、「No」と言います。引き続き、Connection が一致する他の相手を再生します。

ボイス コマンドによる電話の発信

手順

- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。Connection ユーザに電話を発信するには、「Call <Name/alternate name>」と発音します（たとえば、「Call Frank Edwards」）。

または

連絡先の特定の番号に発信するには、「Call <Name/alternate name> at <home/work/mobile>」と発音します（たとえば、「Call Bob on his mobile」または「Call Service Department at work」と発音します）。

または

「Call <Number>」と発音して、Connection 内線または電話番号に発信します。数字は、1 桁ずつ個別に発音します（たとえば、内線番号 12345 の場合は、「Call one two three four five」と発音し、「Call twelve three forty-five」とは発音しないでください）。

ステップ 3 Connection が呼び出す相手の名前または番号を再生したら、「Cancel」と発音することで、システムへの接続を維持したまま最後のアクションを停止することができます。

関連トピック

[ボイス コマンドによる電話の発信について、\(37 ページ\)](#)



第 8 章

会議の管理

- [会議の管理について](#), 39 ページ
- [予定されている会議の一覧表示](#), 39 ページ
- [Cisco Unified MeetingPlace での即時会議の開始](#), 41 ページ

会議の管理について

改訂：2010年11月16日

Microsoft Outlook または Cisco Unified MeetingPlace でスケジュールされている予定および会議を確認できます。

会議を管理するために実行できるその他のアクションには次のものがあります。

- 会議への招待の受け入れまたは拒否（Outlook 会議に限る）。
- 進行中の会議への参加。
- 会議の参加者の一覧表示。
- 会議への招待の詳細情報の再生。
- 会議開催者へのメッセージの送信。
- 会議参加者へのメッセージの送信。
- 会議のキャンセル（会議開催者に限る）。
- Cisco Unified MeetingPlace での即時会議の開始。

予定されている会議の一覧表示

改訂：2010年11月16日

予定されている会議の一覧の再生に加え、Cisco Unity Connection は各会議の詳細を再生し、対応の一覧を提供します。

電話のキーパッドを使用した予定されている会議の一覧表示

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 メインメニューで、[会議] オプションを選択します。
 - ステップ 3 指示に従って、会議の一覧を再生する時間帯を定義します。
 - ステップ 4 各会議が一覧表示されたら、指示に従って、会議についての詳細情報の取得、会議への参加、参加者の一覧表示、開催者へのメッセージの送信、会議参加者へのメッセージの送信、会議への招待の受け入れ、または会議への招待の拒否を行います。会議の開催者は、会議をキャンセルするオプションも選択できます。
-

ボイス コマンドを使用した予定されている会議の一覧表示

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Play Meetings」または「List Meetings」と発音して、現在および将来のすべての会議の時刻、会議の開催者、および件名を一覧表示します。
または
「Play Meetings on <date>」または「List Meetings on <date>」と発音して、特定の日付の会議の時刻、会議の開催者、および件名を一覧表示します。
 - ステップ 3 説明の再生後に会議を管理するには、指示に従って次のボイス コマンドを使用します。

アクション	ボイス コマンド
Cisco MeetingPlace 会議に参加する	「Join」
参加者のリストを再生する	「List participants」
会議リマインダから詳細情報を再生する	「Details」
会議開催者に送信するボイス メッセージを録音する	「Send message to organizer」

アクション	ボイス コマンド
会議参加者に送信するボイス メッセージを録音する	「Send message to participants」
予定表に含まれる次の会議の時刻、会議開催者、および件名を再生する	「Next」
予定表に含まれる前の会議の時刻、会議開催者、および件名を再生する	「Previous」
会議依頼を承諾する (Outlook 会議に限定)	「Accept」
会議依頼を辞退する (Outlook 会議に限定)	「Decline」
会議をキャンセルする (会議開催者に限る)	「Cancel meeting」

Cisco Unified MeetingPlace での即時会議の開始

改訂 : 2010 年 11 月 16 日

Cisco Unified MeetingPlace および Cisco Unity Connection を使用して即時会議を開始し、会議に接続できます。

電話のキーパッドを使用した即時会議の開始

手順

- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2 メイン メニューで、[会議]、[会議を開催] オプションを選択します。
- ステップ 3 指示に従って、Cisco Unified MeetingPlace の即時会議を現在の時刻に設定し、参加します。

ボイス コマンドを使用した即時会議の開始

手順

- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Start Meeting」。
 - ステップ 3 指示に従って、Cisco Unified MeetingPlace の即時会議を現在の時刻に設定し、参加します。
-



第 9 章

個人のグリーティングの管理

- [個人のグリーティングについて](#), 43 ページ
- [現在のグリーティングの再録音](#), 45 ページ
- [オプション グリーティングのオンまたはオフ](#), 46 ページ
- [グリーティングの変更](#), 47 ページ
- [すべてのグリーティングの再生](#), 49 ページ
- [多言語システムでの追加言語のグリーティングの録音](#), 50 ページ
- [Cisco Unity Connection のビデオ グリーティング](#), 51 ページ

個人のグリーティングについて

Cisco Unity Connection では、個人のグリーティングを最大 6 つ録音できます。グリーティングは必要な数だけ有効にすることができます。また、グリーティングの使用期間も指定できます。

多言語システムの場合、複数の言語（デフォルトの言語とそれ以外のシステムで利用可能な言語）で個人のグリーティングを再生するオプションを選択できます。デフォルト以外の言語のグリーティングを管理する場合は、電話のキーパッドを使用します。ボイス コマンドは使用できません。

次に、6 つの個人のグリーティングとそのしくみについて説明します。Connection では、有効にしたグリーティングが適切な状況で再生されます。ただし、一部のグリーティングは他のグリーティングより優先されます。

標準グリーティング

このグリーティングは、Connection の管理者が指定した会社の営業時間中、または他のグリーティングがすべて有効ではない状況において再生されます。

設計上、標準グリーティングはオフにすることができません。

時間外グリーティング

Connection の管理者が指定した会社の営業時間外に、特別なグリーティングを再生する場合は、このグリーティングを有効にします（たとえば、「申し訳ありませんが、電話に出ることができません。当社の営業時間は <times> です」）。

時間外グリーティングが有効になっていると、営業時間外の場合に限り、このグリーティングが標準グリーティングより優先されます。

オプション グリーティング

休暇中などの特別な状況を知らせる場合は、このグリーティングを特定の期間に有効にします（たとえば、「<date> までオフィスにいません」）。

有効になっている場合、このグリーティングは他のどのグリーティングよりも優先されます。

電話の呼び出し音を鳴らさずにグリーティングを再生するかどうか、発信者がグリーティングをスキップできるかどうか、およびオプション グリーティングが有効であるときに発信者がメッセージを残せるかどうかは、Connection の管理者が指定します。Messaging Assistant Web ツールの [オプション グリーティング] ページには、管理者が使用可能にしている発信者オプションが表示されます（ある場合）。外部の発信者や他の Connection ユーザが内線をダイヤルして直接電話をかけた場合、発信者オプションは適用されません。



ヒント

他の Connection ユーザが電話でメッセージを送信した場合、そのユーザにはオプション グリーティングが再生されません。オプション グリーティングを有効にするときは、自分の名前だけでなく、自分が不在であることを示す情報を録音名に含めるようにすることも検討してください。録音名は、他のユーザがメッセージの宛先としてその名前を指定したとき、またディレクトリでその名前を検索したときに再生されます。

電話で Connection にログインした後、オプション グリーティングが有効になっていることを知らせるプロンプトが再生されることもあります。

通話中 グリーティング

通話中であることを発信者に知らせたい場合は、このグリーティングを有効にします（たとえば、「現在別の電話に出ています。メッセージを残してください」）。

通話中グリーティングが有効になっていると、通話中の場合に限り、このグリーティングが標準グリーティング、時間外グリーティング、内線グリーティングより優先されます。

なお、Connection の通話中グリーティングが動作するのに必要なサポートは、すべての電話システムで提供されているわけではありません。詳細については、Connection の管理者にお問い合わせください。

内線 グリーティング

同僚に知らせたい情報を提供する場合は、このグリーティングを有効にします（たとえば、「本日の正午まで会議室 B にいます」）。

有効になっている場合、内線グリーティングは標準グリーティングおよび時間外グリーティングより優先されます。また、内線グリーティングは、電話に回答しない場合に社内の発信者に対してだけ再生されます。

一部の電話機では内線グリーティングがサポートされない場合があるので注意してください。詳細については、Connection の管理者にお問い合わせください。

祝日グリーティング

祝日に特別なグリーティングを再生する必要がある場合は、このグリーティングを有効にします（たとえば、「本日は祝日ですので、電話に出ることができません。<date>～<date>までオフィスにいません」）。

祝日グリーティングが有効になっていると、営業時間外の場合に限り、このグリーティングが標準グリーティングより優先されます。

現在のグリーティングの再録音

このセクションでは、現在、Cisco Unity Connection で再生するように設定されているグリーティングを新しく録音します。

電話のキーパッドを使用した現在のグリーティングの再録音

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2** 単一言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション]、[グリーティング] オプションの順に選択します。
または
多言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション]、[グリーティング]、[<録音する現在のグリーティングに該当する言語>]を選択します。
 - ステップ 3** Connection によって現在のグリーティングが再生された後、指示に従って再録音します。録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押します。
-

電話でボイス コマンドを使用した現在のグリーティングの再録音

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Record my <greeting name> greeting」。
 - ステップ 3** 録音が終了したら、# を押します。
-

オプショングリーティングのオンまたはオフ

オプショングリーティングをオンにすると、日時を設定してオフにしたり、無制限にオンにしたりできます。

電話のキーパッドを使用したオプショングリーティングのオンまたはオフ

手順

- ステップ1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ2 単一言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション]、[グリーティング] オプションの順に選択します。
または
多言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション]、[グリーティング]、[<オンまたはオフにするオプショングリーティングに該当する言語>]を選択します。
 - ステップ3 #を押して、現在のグリーティングの再生を省略します。
 - ステップ4 指示に従って、オプショングリーティングをオンまたはオフにします。
 - ステップ5 オプショングリーティングをオンにした場合は、指示に従って、いつオフにするのかを設定するか、無期限にオンのままにしておきます。
-

ボイス コマンドを使用したオプショングリーティングのオンまたはオフ

手順

- ステップ1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Turn on my alternate greeting」（グリーティングは無期限にオンのままになります）、または
「Turn on alternate greeting until <date> at <time>」
または
「Turn off my alternate greeting」。
-

グリーティングの変更

個人設定をオンにすると、使用可能になるまでの待機時間を指定できます。Cisco Unity Connection は、指定した時刻まで該当する状況でグリーティングを再生し、その後グリーティングは自動的にオフになります。たとえば、オプショングリーティングを設定して、休暇から戻ってきた日に再生を止めることができます。

グリーティングは無期限に再生するように設定することもできます。これは、通話中グリーティングや時間外グリーティングを有効にするときに便利です。

次のいずれかを選択して、グリーティングが有効であるときに発信者に対して再生する内容を指定します。

[グリーティングの再録音]	<p>Connection によって、ユーザが録音したグリーティングが再生されます。</p> <p>(注) グリーティングを録音しただけでは、そのグリーティングは有効になりません。</p>
[システム グリーティング]	<p>Connection によって、あらかじめ録音されているグリーティングが、録音名とともに再生されます（たとえば、「申し訳ありません。<your name>は電話に出られません」）。録音名が登録されていない場合は、Connection がテキスト/スピーチ機能を使用して表示名を読み上げます。まだ録音されていないグリーティングを有効にした場合は、Connection によってあらかじめ録音されているシステム グリーティングが再生されます。</p>

グリーティングはいつでもオフにすることができます。グリーティングを無効にすると、録音を消去しなくても、Connection ではそのグリーティングは再生されなくなります。



ヒント

個人のグリーティングを録音した後でシステム グリーティングを使用するように設定した場合、録音したグリーティングは電話で使用できなくなります。新しい個人のグリーティングを録音して有効にする必要があります。

電話のキーパッドを使用したグリーティングの変更

手順

- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2 単一言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション]、[グリーティング] オプションの順に選択します。

または

多言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション]、[グリーティング]、[<変更するグリーティングに該当する言語>]を選択します。

ステップ 3 Connection が現在のグリーティングを再生します。再生をスキップするには、# を押します。

ステップ 4 指示に従って、変更するグリーティングを選択してから変更を行います。
録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押します。

ボイス コマンドを使用したグリーティングの変更

手順

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のコマンドを使用してグリーティングを変更し、追加の指示が再生されたらそれに従います。

アクション	ボイス コマンド
標準グリーティングを再生する	「Play my greeting」
特定のグリーティングを再生する	「Play <greeting name> greeting」
標準グリーティングを録音または再録音する	「Record my greeting」
時間外グリーティング、オプショングリーティング、通話中グリーティング、内線グリーティング、または祝日グリーティングを録音または再録音する	「Record my <greeting name> greeting」
標準グリーティングとしてシステムグリーティングを使用する	「Use my default greeting」
特定のグリーティングとしてシステムグリーティングを使用する	「Use default <greeting name> greeting」
グリーティングとして何も使用しない (発信者にはメッセージを残すように合図する発信音だけが再生される)	「Play nothing for my <greeting name> greeting」
無期限にグリーティングを有効にする	「Turn on <greeting name> greeting」

アクション	ボイス コマンド
特定の日時までグリーティングを有効にする	「Turn on <greeting name> greeting until <date> at <time>」
グリーティングを無効にする	「Turn off <greeting name> greeting」
ヘルプ	「Greetings Help」

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押すか、数秒間無音の状態にします。

すべてのグリーティングの再生

Cisco Unity Connection はまず現在のグリーティングを再生してから、残りのグリーティングを再生します。

電話のキーパッドを使用したすべてのグリーティングの再生

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** 単一言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション]、[グリーティング]、[全てのグリーティングを聞く] オプションの順に選択します。
または
多言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション]、[グリーティング]、[<再生するグリーティングに該当する言語>]、[全てのグリーティングを聞く] オプションの順に選択します。
- Connection が 6 つのグリーティングすべてを、現在のグリーティングから順に再生します。
-

ボイス コマンドを使用したすべてのグリーティングの再生

手順

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Play all greetings」。

Connection が6つのグリーティングすべてを、現在のグリーティングから順に再生します。グリーティングごとに、Connection はグリーティングがオンかオフかを通知します。

多言語システムでの追加言語のグリーティングの録音

多言語システムの場合、複数の言語でグリーティングを再生するオプションを選択できます。たとえば、Cisco Unity Connection がフランス語とスペイン語でプロンプトを再生するように設定されている場合、標準グリーティングを両方の言語で録音して、スペイン語を話す発信者とフランス語を話す発信者にそれぞれの言語でグリーティングを再生することができます。

システムに対応する言語でグリーティングが録音されていない場合、Connection は、その言語に関連付けられた通話に対してシステムグリーティングを再生します。たとえば、標準グリーティングをスペイン語ではなくフランス語で録音した場合、スペイン語を話す発信者に対してはシステムグリーティングが再生され、フランス語を話す発信者に対してはユーザが録音したフランス語のグリーティングが再生されます。

録音するグリーティングの言語を選択すると、Connection は同じ言語で[グリーティング]メニューオプションを再生します。

電話のキーパッドを使用した追加言語のグリーティングの録音

手順

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション]、[グリーティング]、[<録音するグリーティングに該当する言語>] オプションの順に選択します。

ステップ 3 Connection が現在のグリーティングを再生します。再生をスキップするには、# を押します。

ステップ 4 指示に従って、録音するグリーティングを選択して録音します。

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押します。

ボイス コマンドを使用した追加言語のグリーティングの録音

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[グリーティング]、[<録音するグリーティングに該当する言語>] オプションの順に選択します。
- ステップ 4** Connection が現在のグリーティングを再生します。再生をスキップするには、# を押します。
- ステップ 5** 指示に従って、録音するグリーティングを選択して録音します。
録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押すか、数秒間無音の状態にします。
- ヒント** 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。
-

Cisco Unity Connection のビデオ グリーティング

Cisco Unity Connection 10.0(1) では、ビデオ グリーティングを発信者に提供することで、現行のグリーティング エクスペリエンスを強化しています。Unity Connection により、ユーザはビデオ エンドポイントを使用して、ビデオ グリーティングを録音および再生できます。ユーザは、電話 ユーザ インターフェイス（タッチトーンカンバセーション）を使用したダイレクト サインインでログインし、ビデオ グリーティングを録音および再生します。これらは設定オプションと自己登録によってサポートされています。ユーザは、電話 ユーザ インターフェイスと Cisco PCA（Personal Communication Assistant）の両方を使用して、ビデオ グリーティング設定を有効または無効にできます。

Unity Connection では、次のタイプのビデオ グリーティングの録音と再生が可能です。

- オプション
- 通話中
- 内線
- 時間外
- 標準
- 祝日



(注) エラー グリーティングは音声のみで再生されます。

ビデオ グリーティングの詳細については、『System Administration Guide of Cisco Unity Connection』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/10x/admin/guide/10xcucsagx.html) の「Managing Video Greeting in Cisco Unity Connection 10.x」の章を参照してください。

ビデオ グリーティングの録音

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- (注) 音声プロンプトの再生中に、Unity Connection で電話画面に Cisco ロゴが表示されます。
- ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション]、[グリーティング] オプションの順に選択します。
- (注) 電話画面でビデオ グリーティングの再生中に、Unity Connection でビデオが表示されません。
- ステップ 3** Connection が現在のビデオ グリーティングを再生したら、再録音するように求められます。
- ビデオ グリーティングを再録音するには、1 を押します。
 - 録音を一時停止または再開するには、8 を押します。
 - 録音を終了するには、# を押します。
- (注) ビデオ グリーティングを録音する時点で、Cisco ロゴと自分の写真 (Picture in Picture) が電話画面に表示されます。
-

電話のキーパッドを使用したオプション ビデオ グリーティングのオンとオフの切り換え

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- (注) 音声プロンプトの再生中に、Unity Connection で電話画面に Cisco ロゴが表示されます。
- ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション]、[グリーティング] オプションの順に選択します。
- (注) 電話画面でビデオ グリーティングの再生中に、Unity Connection でビデオが表示されません。

- ステップ 3** #を押して、現在のビデオグリーティングの再生を省略します。
- ステップ 4** 指示に従って、オプションビデオグリーティングをオンまたはオフにします。
- ステップ 5** オプションビデオグリーティングをオンにした場合は、指示に従って、いつオフにするのかを設定するか、無期限にオンのままにしておきます。
-



第 10 章

メッセージ通知の管理

- [メッセージ通知について](#), 55 ページ
- [デバイスへの通知のオンまたはオフ](#), 55 ページ
- [通知先電話番号の変更](#), 56 ページ

メッセージ通知について

Cisco Unity Connection は電話またはポケットベルを呼び出して、新しいメッセージの到着を通知できます。

通知のオンとオフを切り替えるだけでなく、自宅の電話、勤務先電話、携帯電話、ポケットベルなどの通知先電話番号を変更することもできます。



(注) Messaging Assistant Web ツールを使用している場合は、さらに多くのオプションや通知デバイスを使用できます。Messaging Assistant のヘルプを参照してください。

デバイスへの通知のオンまたはオフ

自宅の電話、勤務先電話、携帯電話、ポケットベルに対する通知のオンとオフを切り替えることができます。通知デバイスをオフにしても、その設定は削除されません。

電話のキーパッドを使用したデバイスへの通知のオンまたはオフ

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション]、[メッセージ設定]、[メッセージ通知]の順に選択します。
 - ステップ 3 Connection で現在の通知の状態がアナウンスされた後、指示に従ってポケットベル、自宅の電話、勤務先電話、または携帯電話への通知をオンまたはオフにします。
-

ボイス コマンドを使用したデバイスへの通知のオンまたはオフ

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
 - ステップ 3 電話のキーパッドで、[メッセージ設定]、[メッセージ通知] オプションの順に選択します。
 - ステップ 4 Connection で現在の通知の状態がアナウンスされた後、指示に従ってポケットベル、自宅の電話、勤務先電話、または携帯電話への通知をオンまたはオフにします。
ヒント 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。
-

通知先電話番号の変更

自宅の電話、勤務先電話、携帯電話、およびポケットベルの通知先番号を変更できます。

社内の電話番号の場合は、内線を入力します。外線電話番号の場合は、外線通話に必要なアクセスコード（たとえば 9）から入力を始めます。必要に応じて、# キーを使用して、1 秒間のポーズを追加します。

電話のキーパッドを使用した通知先電話番号の変更

手順

-
- ステップ1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ2 メインメニューで、[設定オプション]、[メッセージ設定]、[メッセージ通知]の順に選択します。
 - ステップ3 Connection で現在の通知の状態がアナウンスされた後、指示に従ってポケットベル、自宅の電話、勤務先電話、または携帯電話の通知先電話番号を変更します。
-

ボイス コマンドを使用した通知先電話番号の変更

手順

-
- ステップ1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
 - ステップ3 電話のキーパッドで、[メッセージ設定]、[メッセージ通知] オプションの順に選択します。
 - ステップ4 Connection で現在の通知の状態がアナウンスされた後、指示に従ってポケットベル、自宅の電話、勤務先電話、または携帯電話の通知先電話番号を変更します。
ヒント 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。
-



第 11 章

プライベート同報リストの管理

- [プライベート同報リストについて, 59 ページ](#)
- [プライベート同報リストの作成, 59 ページ](#)
- [プライベート同報リストのメンバーの変更, 61 ページ](#)
- [プライベート同報リストの録音名の変更, 62 ページ](#)
- [プライベート同報リストの削除, 63 ページ](#)

プライベート同報リストについて

プライベート同報リストを使用して、ボイス メッセージ受信者のグループを独自に作成できます。ボイスメッセージをプライベート同報リストの1つに宛先指定すると、そのリスト上のすべての受信者にそのメッセージが送信されます。Cisco Unity Connection には、個人用に使用できるプライベート同報リストがいくつか用意されています。

プライベート同報リストにボイスメッセージを送信できるのは本人だけです。これを行うには、電話のキーパッドまたはボイスコマンドを使用します。電子メールアプリケーションでは、メッセージをプライベート同報リストに送ることはできません。

プライベート同報リストの作成

管理できるリストの最大数は、Cisco Unity Connection の管理者が指定します。リストにはあらかじめ番号が付けられています。リストに名前を追加すると、Connection はリストの番号をリスト管理用の ID として使用します。



ヒント

電話を使用してプライベート同報リストを作成することもできますが、Messaging Assistant Web ツールで作成の方が簡単です。

電話のキーパッドを使用したプライベート同報リストの作成

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション]、[メッセージ設定]、[プライベート同報リスト]、[プライベート同報リストの編集]の順に選択します。
- ステップ 3** 未使用のリストの番号を入力します。
ヒント 未使用のリストの番号がわからない場合は、メインメニューで、[設定オプション]、[メッセージ設定]、[プライベート同報リスト]、[プライベート同報リストの名前の変更]オプションの順に選択します。 Connection は、リスト番号を含むすでに使用中のリストに関する情報を再生するため、再生された番号以外の番号を使用します。
- ステップ 4** Connection での「Private List <Number>」というアナウンスの後、指示に従ってリストに名前を追加します。
- ステップ 5** 名前の追加が終了したら、[リストの名前をもう一度録音する]オプションを選択し、指示に従ってリスト名を録音します。
-

ボイス コマンドを使用したプライベート同報リストの作成

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[メッセージ設定]、[プライベート同報リスト]、[プライベート同報リストの編集]を選択します。
- ステップ 4** 未使用のリストの番号を入力します。
ヒント 未使用のリストの番号がわからない場合は、[メッセージ設定]、[プライベート同報リスト]、[プライベート同報リストの名前の変更]オプションの順に選択します。 Connection は、リスト番号を含むすでに使用中のリストに関する情報を再生するため、再生された番号以外の番号を使用します。
- ステップ 5** Connection での「Private List <Number>」というアナウンスの後、指示に従ってリストに名前を追加します。
- ステップ 6** 名前の追加が終了したら、[リストの名前をもう一度録音する]オプションを選択し、指示に従ってリスト名を録音します。
ヒント 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。

プライベート同報リストのメンバーの変更

プライベート同報リストに追加できるメンバーの最大数は、Cisco Unity Connection の管理者が指定します。ディレクトリ内のユーザまたはシステム同報リストはすべて、プライベート同報リストのメンバーとして指定できます。

Connection の設定状況によっては、ディレクトリ外のリモートボイスメッセージングシステム上のユーザにメッセージを送信したり返信したりできる場合があります。その場合は、リモート連絡先であるこれらのユーザを、プライベート同報リストに含めることもできます。

すでにプライベート同報リストのメンバーとなっているユーザ、システム同報リスト、またはリモート連絡先を追加しようとしても、Connection では、そのメンバーを同じリストに再度追加することはできません。

プライベート同報リストでは、メンバーの追加、確認、削除が可能です。



- (注) プライベート同報リストのメンバーに対して管理上の変更が行われた場合、後でリストを確認するときにメンバーが異なって表示されることがあります。ときには、管理上の変更によって、一部のメンバーが予告なくリストから削除される場合もあります。Connection の管理者は、変更が発生する前にユーザに通知できます。それでも、誤ってメンバーが削除された場合は、ユーザがこれらのメンバーをもう一度リストに追加します。

電話のキーパッドを使用したプライベート同報リストのメンバーの変更

手順

- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション]、[メッセージ設定]、[プライベート同報リスト]、[名前の変更]の順に選択します。
- ステップ 3** 指示に従ってメンバーを変更するリストを選択し、メンバーを追加、確認、または削除します。
- ヒント** リストのメンバーを確認する際には、それぞれのメンバーをすばやく選択できます。リストから受信者を削除するには3を押します。前の名前に戻るには7を押します。次の名前に進むには9を押します。リストの先頭に戻るには77を押します。リストの最後に進むには99を押します。

ボイスコマンドを使用したプライベート同報リストのメンバーの変更

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[メッセージ設定]、[プライベート同報リスト]、[名前の変更]を選択します。
- ステップ 4** 指示に従ってメンバーを変更するリストを選択し、メンバーを追加、確認、または削除します。
- ヒント** リストのメンバーを確認する際には、それぞれのメンバーをすばやく選択できます。リストから受信者を削除するには3を押します。前の名前に戻るには7を押します。次の名前に進むには9を押します。リストの先頭に戻るには77を押します。リストの最後に進むには99を押します。
- ヒント** 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。
-

プライベート同報リストの録音名の変更

プライベート同報リストごとに録音名があります。メッセージの宛先としてプライベート同報リストを指定した場合、Cisco Unity Connection は、正しいリストが指定されたことを確認できるように、そのリストの録音名を再生します。

電話のキーパッドを使用したプライベート同報リストの録音名の変更

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション]、[メッセージ設定]、[プライベート同報リスト]、[名前の変更]の順に選択します。
- ステップ 3** 指示に従って録音名を変更するリストを選択し、名前を再録音します（選択したリストにメンバーが存在しない場合は、メンバーを追加してからリストの名前を録音する必要があるので注意してください）。
-

ボイス コマンドを使用したプライベート同報リストの録音名の変更

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[メッセージ設定]、[プライベート同報リスト]、[名前の変更]を選択します。
- ステップ 4** 指示に従って録音名を変更するリストを選択し、名前を再録音します（選択したリストにメンバーが存在しない場合は、メンバーを追加してからリストの名前を録音する必要があるので注意してください）。
- ヒント** 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。
-

プライベート同報リストの削除

電話を使用して、リストの個々のメンバーを削除できますが、リスト自体は削除できません。Messaging Assistant Web ツールの録音名を含むリストとすべてのメンバーを一度に削除します。



第 12 章

宛先指定優先リストの管理

- [宛先指定優先リストについて, 65 ページ](#)
- [宛先指定優先リストの変更, 65 ページ](#)

宛先指定優先リストについて

宛先指定優先リストにより、「buddy」リストのように定義された特定の受信者が Cisco Unity Connection で優先されるようになります。メッセージのアドレス指定を行い、スペリングの一部や名前呼び方に基づいて、Connection で複数の受信者名の一致が見つかったら、宛先指定優先リストにある名前との一致が最初に表示されます。これによって、簡単に目的の受信者を検索して選択できます。

また、Connection では、メッセージを送信するときに受信者の名前を宛先指定優先リストへ自動的に追加することもでき、メッセージを送信する頻度に基づいて、リスト内の名前の優先順位を変更することもできます。



(注) 宛先指定優先リストの確認と変更を行えるかどうか、または使用頻度に応じて自動的に Connection が受信者名をリストに追加するかどうかは、Connection の管理者によって決定されます。

宛先指定優先リストの変更

宛先指定優先リストでは、ユーザ、連絡先、同報リストを追加したり、内容を確認したり、名前を削除したりできます。宛先指定優先リストには、メッセージ宛先指定履歴に基づいて、Cisco Unity Connection で自動的に追加された名前が含まれることもあります。

電話のキーパッドを使用した宛先指定優先リストの変更

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション]、[メッセージ設定]、[宛先指定優先リスト]の順に選択します。
 - ステップ 3 指示に従って、宛先指定優先リストのメンバーの追加、確認、削除を行います。名前を確認する場合は、Connection で、姓（ユーザと連絡先の場合）または表示名（同報リストの場合）のアルファベット順で表示されます。
-

ボイス コマンドを使用した宛先指定優先リストの変更

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
 - ステップ 3 電話のキーパッドで、[メッセージ設定]、[宛先指定優先リスト]を選択します。
 - ステップ 4 指示に従って、宛先指定優先リストのメンバーの追加、確認、削除を行います。名前を確認する場合は、Connection で、姓（ユーザと連絡先の場合）または表示名（同報リストの場合）のアルファベット順で表示されます。
ヒント 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。
-



第 13 章

ユーザ設定の変更

- [ユーザ設定について](#), 67 ページ
- [暗証番号の変更](#), 67 ページ
- [録音名の変更](#), 68 ページ
- [ディレクトリ登録ステータスの変更](#), 69 ページ
- [代行用デバイスの変更](#), 70 ページ

ユーザ設定について

ユーザ設定では、Cisco Unity Connection システム上におけるユーザ情報と、システムとの対話に関するオプションが管理されます。

暗証番号の変更

Cisco Unity Connection の暗証番号は、メッセージのプライバシーを保護します。また、不正アクセスからメールボックスを保護します。暗証番号はいつでも変更できます。

暗証番号を変更する際には、Connection 管理者から提供されるセキュリティ ガイドラインに従ってください。一般に、パスワードは短い方が使いやすいのですが、長くて複雑なパスワードを指定した方がより安全です。複雑なパスワードの意味は次のとおりです。

- プライマリ内線番号やそれを逆にしたものを含めることはできない。
- 少なくとも 3 つの異なる数字が必要。
- 昇順また降順で連続する数字（たとえば 12345 や 54321）を使用することはできない。
- 1 つの数字を 3 回以上続けて使用できない（たとえば 14777）。
- 3 桁以上の数字を繰り返し使用することはできない（たとえば 408510408）。

- 名、姓、またはそれらの組み合わせを数値に直して使用することはできない（たとえば、名前が John Doe の場合、johnd、johndoe、jdoe、または doe を数字に直して使用することはできない）。

電話キーパッドを使用した暗証番号の変更

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション]、[設定]、[パスワード] オプションの順に選択します。
 - ステップ 3 指示に従って、新しいパスワードを入力し、確認します。0～9の数字を使用します。
-

ボイス コマンドを使用した暗証番号の変更

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
 - ステップ 3 電話のキーパッドで、[設定]、[パスワード] オプションの順に選択します。
 - ステップ 4 指示に従って、新しいパスワードを入力し、確認します。0～9の数字を使用します。
ヒント 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。
-

録音名の変更

録音名は、他のユーザに残したメッセージとともに再生され、ディレクトリではその名前でユーザが識別されます。また、独自の録音の代わりにシステム録音を使用したグリーティングとともに再生することもできます。



-
- ヒント 他の Cisco Unity Connection ユーザが電話でメッセージを送信した場合、そのユーザにはオプショングリーティングが再生されません。オプショングリーティングを使用可能にするときは、録音名を変更して、不在であることを示す情報を追加することを検討してください。
-

電話のキーパッドを使用した録音名の変更

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション]、[設定]、[録音名] オプションの順に選択します。
 - ステップ 3** プロンプトに従って、名前または短いメッセージを録音します。
録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押します。
-

ボイス コマンドを使用した録音名の変更

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
 - ステップ 3** 電話のキーパッドで、[設定]、[録音名] オプションの順に選択します。
 - ステップ 4** プロンプトに従って、名前または短いメッセージを録音します。
録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押すか、数秒間無音の状態にします。
- ヒント** 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。
-

ディレクトリ登録ステータスの変更

ディレクトリに掲載するかどうかを選択できます。ディレクトリに登録しておく、自分の内線番号を知らない他のユーザが、ディレクトリで自分の名前を検索することによって、連絡を取ることができるようになります。

電話のキーパッドを使用したディレクトリ登録ステータスの変更

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション]、[設定]、[ディレクトリ登録]の順に選択します。Connection によって、ディレクトリ登録にあるかどうか通知されます。
 - ステップ 3 プロンプトに従って、登録ステータスを変更します。
-

ボイス コマンドを使用したディレクトリ登録ステータスの変更

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
 - ステップ 3 電話のキーパッドで、[設定]、[ディレクトリ登録]を選択します。
 - ステップ 4 プロンプトに従って、登録ステータスを変更します。
ヒント 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。
-

代行用デバイスの変更

携帯電話、自宅の電話、あるいは勤務先の別の電話など使用する代行用デバイスの情報を Cisco Unity Connection 設定に追加できます。この機能によって、代行用デバイスから Connection への電話がより便利になります。これは、プライマリ内線番号から電話をかける場合と同じようにシステムが番号を認識し、動作するためです。

最大 10 台の代行用デバイスを追加できます。Connection の管理者は、プライマリ内線番号の他に、代行用デバイスを追加できます（電話でシステムにアクセスするときには、Connection は管理者が定義した代行用デバイスを一覧化しません。ただし、Messaging Assistant では表示できません）。



- (注) 代行用デバイスの一覧に含まれない電話番号からサインインすると、その番号を追加するかどうかが尋ねられます。番号の追加を選択すると、プライマリ内線番号から電話をかける場合と同じように Connection がその番号を認識し、動作します。番号の追加を選択しないと、追加について再度尋ねられることはありません。

電話で代行用デバイスを追加または削除できます。

電話キーパッドを使用した代行用デバイスの変更

手順

- ステップ 1** プライマリ内線または既存の代行用デバイスではない電話からコールし、Cisco Unity Connection にログインします。
- ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション]、[設定]、[代行デバイス]の順に選択します。
- ステップ 3** プロンプトに従って、代行用デバイスとして電話を追加するか、既存の代行用デバイスの一覧表示と削除を行います。

ボイス コマンドを使用した代行用デバイスの変更

手順

- ステップ 1** コールをして Cisco Unity Connection にログインします。
代行用デバイスを追加している場合は、プライマリ内線または既存の代行用デバイスではない電話からコールします。
- ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[設定オプション]、[設定]、[代行デバイス]の順に選択します。
- ステップ 4** プロンプトに従って、代行用デバイスとして電話を追加するか、既存の代行用デバイスの一覧表示と削除を行います。
ヒント 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。



第 14 章

Connection Conversation メニュースタイルの 選択

- [Connection Conversation メニュースタイルについて, 73 ページ](#)
- [Connection カンバセーションのメニュースタイルの変更, 73 ページ](#)

Connection Conversation メニュースタイルについて

電話のキーパッドを使用して Cisco Unity Connection と対話する場合は、標準ガイダンスまたは簡易ガイダンスのいずれかを聞くことができます。標準ガイダンスは理解しやすいプロンプトとインストラクションを提供するものであり、簡易ガイダンスは標準ガイダンスの簡易版です。

ボイス コマンドを使用して Connection と対話する場合は、標準ガイダンスが再生されます。

Connection カンバセーションのメニュースタイルの変更

Cisco Unity Connection のメニュースタイルを変更すると、電話のキーパッドを使用してシステムと対話する場合に再生される内容だけに影響します。ボイス コマンドを使用して Connection と対話する場合は、常に標準ガイダンスが再生されます。

電話のキーパッドを使用した Connection カンバセーションのメニュースタイルの変更

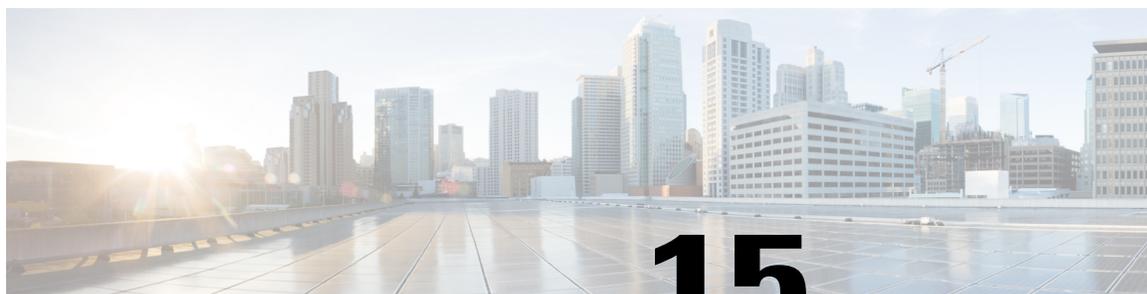
手順

- ステップ1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ2 メインメニューで、[設定オプション]、[メッセージ設定]、[メニュースタイル]の順に選択します。
 - ステップ3 指示に従って、標準ガイダンスと簡易ガイダンスを切り替えます。
-

ボイスコマンドを使用した Connection カンバセーションのメニュースタイルの変更

手順

- ステップ1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
 - ステップ3 電話のキーパッドで、[メッセージ設定]、[メニュースタイル]オプションの順に選択します。
 - ステップ4 指示に従って、標準ガイダンスと簡易ガイダンスを切り替えます。
ヒント 入力方法をボイスコマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。
-



第 15 章

着信転送ルール of 管理

- [着信転送ルールについて, 75 ページ](#)
- [着信転送ルールに関する設定の変更, 76 ページ](#)

着信転送ルールについて

着信転送ルールは、直接ダイヤルしていない発信者（たとえば、ディレクトリを使用した発信）からの間接コールを Cisco Unity Connection でどのように処理するかを制御するルールです。直接コール（個人の電話番号をダイヤルして外部の発信者や他のユーザが電話をかけた場合）に対しては、Connection の転送ルールは適用されません。

間接コールに応答することも、間接コールをすぐにボイスメールにルーティングすることもできます。



ヒント

自分の内線への直接コールに着信転送を設定するには、Connection の管理者に問い合わせてください。卓上電話機や社内で使用されている電話システムでも、直通コールの処理に使用可能な転送機能を提供している場合があります。

次に、3 つの着信転送ルールとその仕組みについて説明します。

標準転送ルール

この転送ルールは、Connection 管理者が指定した会社の営業時間内に有効になります。オンになっている転送ルールが他にない場合は、営業時間外もこの標準転送ルールが有効になります。

設計上、標準転送ルールはオフにすることができません。

オプション転送ルール

他の転送ルールを特定の期間内だけ優先させる場合は、この転送ルールをオンにします。たとえば、休暇中にかかってきたすべての電話をボイスメールに即時転送したり、一時的に別の場所で作業しているときにかかってきた電話を他の内線番号に転送したりすることができます。

オプション転送ルールをオンにすると、そのルールが常に適用されます。オプション転送ルールは他のどの転送ルールよりも優先されます。

時間外転送ルール

Connection 管理者が組織に指定した営業時間外にかかってきた間接コールの処理方法を設定するには、この転送ルールをオンにします（たとえば、営業時間外にかかってきたすべての電話をボイスメールに即時転送することができます）。

オンになっている場合、時間外転送ルールは営業時間外に適用されます。

着信転送ルールに関する設定の変更

間接コールを自分の内線に転送するか、指定した別の内線または電話番号に転送するか、あるいはボイスメールに即時転送するかを選択できます。ボイスメールに転送すると、電話の呼び出し音は鳴りません（着信をボイスメールに送信すれば、発信者は誰かが電話に出るまで待つ必要がありません。すぐにグリーティングが再生されます）。

電話のキーボードを使用した着信転送ルールの設定の変更

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション]、[転送設定] オプションの順に選択します。
 - ステップ 3 設定を変更する転送ルールを選択します。
 - ステップ 4 Connection で現在の転送設定がアナウンスされた後、指示に従ってルールの有効と無効の切り替え、転送先の変更（電話またはボイスメール）、または転送先電話番号の変更を行います（外線に転送する場合は、Connection 管理者に問い合わせてください）。
- （注） 転送番号を変更しても、コールが電話機に転送されるのか、ボイスメールに送信されるのかは変更されません。Connection が着信を電話に転送するように指定してある場合に限り、Connection は転送番号に着信を転送します。
-

ボイス コマンドを使用した着信転送ルールの設定の変更

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーボードに切り替わります）。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[転送設定] オプションを選択します。

ステップ 4 設定を変更する転送ルールを選択します。

ステップ 5 Connection で現在の転送設定がアナウンスされた後、指示に従ってルールの有効と無効の切り替え、転送先の変更（電話またはボイスメール）、または転送先電話番号の変更を行います（外線に転送する場合は、Connection 管理者に問い合わせてください）。

(注) 転送番号を変更しても、コールが電話機に転送されるのか、ボイスメールに送信されるのかは変更されません。Connection が着信を電話に転送するように指定してある場合に限り、Connection は転送番号に着信を転送します。

ヒント 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。



第 16 章

緊急連絡先番号の管理

- [緊急連絡先番号について](#), 79 ページ
- [緊急連絡先番号の変更](#), 79 ページ

緊急連絡先番号について

緊急連絡先番号が設定されている場合、発信者はグリーティングの再生中にキーを押すことによって、別の電話番号にコールを転送することができます。緊急連絡先番号には、オペレータや別のユーザ（上司や同僚）の内線番号だけでなく、応対可能な他のユーザの電話番号も指定できます。

緊急連絡先番号へコールを転送するときに発信者が押すキーは、Cisco Unity Connection 管理者によって指定されます。最大 12 件（キーパッドのキー 1 つに対して 1 件）の緊急連絡先番号を指定できます。

緊急連絡先番号の変更

組織外の緊急連絡先番号を指定するには、外線通話に必要なアクセスコード（たとえば 9）から入力を始めます。



ヒント

緊急連絡先番号を指定するときに、その情報を含めるようにグリーティングを更新することもできます（「ただいま席を外しております。発信音の後にメッセージを残してください。別の営業担当者に電話をつなぐ場合は 4 を押してください」など）。

電話のキーパッドを使用した緊急連絡先番号の指定

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション]、[緊急連絡先番号] の順に選択します。
(注) 緊急連絡先番号に転送するためのキーが1つ以上設定されている場合に限り、緊急連絡先番号を設定するように Connection から指示されます。
- ステップ 3** 指示に従って、緊急連絡先番号を1つ以上指定します。緊急連絡先番号への転送に使用できるキーがアナウンスされます。
-

ボイス コマンドを使用した緊急連絡先番号の指定

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[緊急連絡先番号] オプションを選択します。
(注) 緊急連絡先番号に転送するためのキーが1つ以上設定されている場合に限り、緊急連絡先番号を設定するように Connection から指示されます。
- ステップ 4** 指示に従って、緊急連絡先番号を1つ以上指定します。緊急連絡先番号への転送に使用できるキーがアナウンスされます。
- ヒント** 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。
-



第 17 章

着信コールを処理するパーソナル着信転送ルールセットの管理

- [パーソナル着信転送ルールセットについて, 81 ページ](#)
- [基本転送ルールにおけるパーソナル着信転送ルールセットの使用の有効化と無効化, 82 ページ](#)
- [パーソナル着信転送ルールセットの使用の有効化と無効化, 83 ページ](#)
- [個々のルールセットの有効化と無効化, 84 ページ](#)
- [すべて転送ルールセットの使用, 86 ページ](#)
- [すべての着信の Cisco Unity Connection への転送, 88 ページ](#)

パーソナル着信転送ルールセットについて

パーソナル着信転送ルールセットを設定すると、Cisco Unity Connection で特定の着信コールを発信者の識別情報、時刻、会議スケジュールなどに基づいて転送したり、ボイスメールや別の電話番号に転送したりすることができます。パーソナル着信転送ルールは、基本転送設定を構成できる基本的な転送ルール（標準、オプション、時間外）よりも高度なルールです。

パーソナル着信転送ルールセットは、パーソナル着信転送ルール Web ツールで管理します。ルールセットを定義した後は、Web ツールまたは電話でルールを有効にできます（パーソナル着信転送ルールセットの使用および管理方法に関する詳細については、『*User Guide for the Cisco Unity Connection Personal Call Transfer Rules Web Tool*』を参照してください）。

基本転送ルールにおけるパーソナル着信転送ルールセットの使用の有効化と無効化

Cisco Unity Connection では、パーソナル着信転送ルールは、現在アクティブな基本ルール（標準、オプション、時間外）で、基本設定の代わりにパーソナル着信転送ルールを使用するように指定されている場合にだけ適用されます。

電話のキーパッドを使用した基本転送ルールでのパーソナル着信転送ルールセットの使用の有効化または無効化

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション]、[転送設定] オプションの順に選択します。
 - ステップ 3 転送ルール（標準、オプション、または時間外）を選択します。
 - ステップ 4 Connection によって現在の着信転送の設定がアナウンスされたら、指示に従ってパーソナル着信転送ルールの使用を有効または無効にします。
 - ステップ 5 必要に応じて、基本転送ルールごとにステップ 3 およびステップ 4 を繰り返します。
-

ボイス コマンドを使用した基本転送ルールでのパーソナル着信転送ルールセットの使用の有効化または無効化

手順

-
- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
 - ステップ 3 電話のキーパッドで、[転送設定] オプションを選択します。
 - ステップ 4 転送ルール（標準、オプション、または時間外）を選択します。
 - ステップ 5 Connection によって現在の着信転送の設定がアナウンスされたら、指示に従ってパーソナル着信転送ルールの使用を有効または無効にします。
 - ステップ 6 必要に応じて、基本転送ルールごとにステップ 4 およびステップ 5 を繰り返します。
ヒント 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。

パーソナル着信転送ルールセットの使用の有効化と無効化

有効化とは、基本転送ルール（標準、オプション、時間外）で、基本転送ルールの代わりにパーソナル着信転送ルールセットを使用するように指定されている場合に、Connection がパーソナル着信転送ルールセットを使用して着信コールを処理することを意味します。無効化とは、基本転送ルールでパーソナル着信転送ルールを使用するように指定されている場合でも、Connection がパーソナル着信転送ルールセットを使用せずに着信コールを処理することを意味します。この場合、着信コールは自分の内線番号に転送されます。

電話のキーパッドを使用したパーソナル着信転送ルールセットの使用の有効化または無効化

手順

- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション]、[転送設定]、[パーソナル着信転送ルール] オプションの順に選択します。
- ステップ 3** 有効にする場合は、Connection でルールがオフであることがアナウンスされた後、着信転送ルールをオンにするオプションを選択します。
無効にする場合は、[着信サービスのオフ] オプションを選択します。

ボイス コマンドを使用したパーソナル着信転送ルールセットの使用の有効化または無効化

手順

- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。

- ステップ3** 電話のキーパッドで、[転送設定]、[パーソナル着信転送ルール] オプションの順に選択します。
- ステップ4** 有効にする場合は、**Connection** でルールがオフであることがアナウンスされた後、着信転送ルールをオンにするオプションを選択します。
無効にする場合は、[着信サービスのオフ] オプションを選択します。
-

個々のルールセットの有効化と無効化

電話では一度に1つのルールセットだけを有効にできます。ルールセットはただちにアクティブになります。**Cisco Unity Connection** は、無効になっているルールセットがある場合にだけ、ルールセットを有効にするプロンプトを表示します。

ルールセットの無効化とは、そのルールセットをアクティブにできなくすることを意味します。**Connection** は、有効になっていてもアクティブではないルールがある場合にだけ、ルールセットを無効にするためのプロンプトを再生します。

ルールセットが1つも定義されていない場合、またはアクティブになっていない場合、着信コールは内線に転送されます。

電話のキーパッドを使用したルールセットの有効化

手順

- ステップ1** コールをして **Connection** にログインします。
- ステップ2** メインメニューで、[設定オプション]、[転送設定]、[パーソナル着信転送ルール] オプションの順に選択します。
(注) **Connection** は、パーソナル着信転送ルールセットが有効になっている場合に限り、ルールセットを有効にするためのプロンプトを再生します。
- ステップ3** [着信転送のルールセットを有効にする] オプションを選択します。
- ステップ4** 指示に従って、ルールセットをアクティブにし、ルールセットをアクティブにする日数を設定します。
-

ボイス コマンドを使用したルールセットの有効化

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[転送設定]、[パーソナル着信転送ルール] オプションの順に選択します。
(注) Connection は、パーソナル着信転送ルールセットが有効になっている場合に限り、ルールセットを有効にするためのプロンプトを再生します。
- ステップ 4** [着信転送のルールセットを有効にする] オプションを選択します。
- ステップ 5** 指示に従って、ルールセットをアクティブにし、ルールセットをアクティブにする日数を設定します。
- ヒント** 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。
-

電話のキーパッドを使用したルールセットの無効化

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション]、[転送設定]、[パーソナル着信転送ルール]、[転送ルールをキャンセル] オプションの順に選択します。
(注) Connection は、有効にはなっていないアクティブではないルールセットがある場合にだけ、ルールセットを無効にするためのプロンプトを再生します。
- ステップ 3** 指示に従ってルールセットを無効にします。
-

ボイス コマンドを使用したルールセットの無効化

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。

- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[転送設定]、[パーソナル着信転送ルール]、[転送ルールをキャンセル] オプションの順に選択します。
- （注） Connection は、有効にはなっていないアクティブではないルールセットがある場合にだけ、ルールセットを無効にするためのプロンプトを再生します。
- ステップ 4** 指示に従ってルールセットを無効にします。
- ヒント 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。

すべて転送ルールセットの使用

すべて転送ルールセットには、指定した期間内のすべての着信コールを特定の通知先に転送する 1 つのルールが含まれています。[すべて転送] は電話でだけ設定する必要がある唯一のルールセットです。Cisco Unity Connection はルールセットを有効にして、パーソナル着信転送ルール Web ツールの [着信転送ルールセットの設定] ページに表示します。

[すべて転送] を有効にすると、ただちにそのルールセットが、指定した期間のアクティブなルール設定になります。[すべて転送] の通知先で、転送された着信コールに対する応答がない場合、Connection はそのコールをボイスメールに転送します。

電話のキーパッドを使用したすべて転送ルールセットの有効化

手順

- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション]、[転送設定]、[パーソナル着信転送ルール] オプションの順に選択します。
- ステップ 3** 指示に従って、すべての着信コールをボイスメールまたは特定の電話番号に転送するように設定し、[すべて転送] ルールセットをアクティブにする日数を指定します。
- ヒント 1 日は午後 11 時 59 分に終わるため、1 日という期間は当日の終わり（午後 11 時 59 分）までを指します。2 日間は次の日の終わりまでを指し、以下同様に続きます。期間には 1 ~ 999 の日数を入力できます。

ボイス コマンドを使用したすべて転送ルールセットの有効化

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[転送設定]、[パーソナル着信転送ルール] オプションの順に選択します。
- ステップ 4** 指示に従って、すべての着信コールをボイスメールまたは特定の電話番号に転送するように設定し、[すべて転送] ルールセットをアクティブにする日数を指定します。
- ヒント** 1日は午後 11 時 59 分に終わるため、1日という期間は当日の終わり（午後 11 時 59 分）までを指します。2日間は次の日の終わりまでを指し、以下同様に続きます。期間には 1 ~ 999 の日数を入力できます。
- ヒント** 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。
-

電話のキーパッドを使用したすべて転送ルールセットの無効化

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション]、[転送設定]、[パーソナル着信転送ルール]、[すべての着信を電話番号に転送をキャンセル] オプションの順に選択します。
-

ボイス コマンドを使用したすべて転送ルールセットの無効化

手順

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[転送設定]、[パーソナル着信転送ルール]、[すべての着信を電話番号に転送をキャンセル] オプションの順に選択します。

ヒント 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。

すべての着信の Cisco Unity Connection への転送

すべての着信を Cisco Unity Connection に転送して、パーソナル着信転送ルールセットを即時に適用できます。このオプションを使用すると、応答がないときにパーソナル着信転送ルールセットを適用して通知先を検出する前に、内線番号が呼び出されなくなります。

電話のキーボードを使用した Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送

手順

- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション]、[転送設定]、[パーソナル着信転送ルール]オプションの順に選択します。
- ステップ 3 指示に従って、Connection へのすべての着信の転送を有効にし、転送をアクティブにする日数を設定します。

ヒント 1日は午後 11 時 59 分に終わるため、1日という期間は当日の終わり（午後 11 時 59 分）までを指します。2日間は次の日の終わりまでを指し、以下同様に続きます。期間には 1～999 の日数を入力できます。

ボイス コマンドを使用した Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送

手順

- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーボードに切り替わります）。

- ステップ3** 電話のキーパッドで、[転送設定]、[パーソナル着信転送ルール] オプションの順に選択します。
- ステップ4** 指示に従って、Connection へのすべての着信の転送を有効にし、転送をアクティブにする日数を設定します。
- ヒント** 1日は午後11時59分に終わるため、1日という期間は当日の終わり（午後11時59分）までを指します。2日間は次の日の終わりまでを指し、以下同様に続きます。期間には1～999の日数を入力できます。
- ヒント** 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。

電話のキーパッドを使用した Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送のキャンセル

手順

- ステップ1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ2** メインメニューで、[設定オプション]、[転送設定]、[パーソナル着信転送ルール]、[すべての着信を Cisco Unity Connection へ転送をキャンセル] オプションの順に選択します。

ボイス コマンドを使用した Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送のキャンセル

手順

- ステップ1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
- ステップ3** 電話のキーパッドで、[転送設定]、[パーソナル着信転送ルール]、[すべての着信を Cisco Unity Connection へ転送をキャンセル] オプションの順に選択します。
- ヒント** 入力方法をボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。



第 18 章

再生の設定の変更

- 再生の設定について, 91 ページ
- 個々のメッセージの再生音量の変更, 91 ページ
- 個々のメッセージの再生速度の変更, 92 ページ
- Connection カンバセーションの再生音量の変更, 93 ページ
- Connection カンバセーションの再生速度の変更, 94 ページ

再生の設定について

再生の設定によって、次の再生音量と再生速度を変更できます。

- 再生中の個々のメッセージ。
- Connection がプロンプトを再生している間、現在の電話セッションのカンバセーション。

個々のメッセージの再生の変更は、同じ電話セッション中に再生する他のメッセージの再生には影響しません。カンバセーションの再生の変更は電話を切るまで有効です。次回 Connection に発信するときには、再生設定がデフォルトの状態にリセットされます。



(注) カンバセーションの速度または音量を調整する場合は、ボイス コマンドを使用します。電話のキーパッドは使用できません。

個々のメッセージの再生音量の変更

電話でメッセージを聞く場合には、メッセージの音量を調整できます。音量を変更しても、同じセッションで別のメッセージを聞く場合には、その再生音量には影響しません。

電話のキーパッドを使用した個々のメッセージの再生音量の変更

手順

再生音量の調整で押すキーは、カンバセーションによって異なります。再生音量の変更に割り当てられているキーについては、システム管理者に問い合わせてください。メッセージが再生されている間、次の音量設定で切り替えができます。

オプション	説明
キーを一度押す	音量が上がります。
キーをもう一度押す	音量が下がります。
キーをもう一度押す	音量が標準に戻ります。

ボイス コマンドを使用した個々のメッセージの再生音量の変更

手順

メッセージが再生されている間に、次のボイス コマンドを使用します。

アクション	コマンド
音量を変更する	「Louder」または「Softer」
再生音量をデフォルト設定にリセットする（一部のシステムでは使用不可）	「Reset volume」

個々のメッセージの再生速度の変更

メッセージを電話で聞く場合には、メッセージの再生速度を調整できます。速度を変更しても、同じセッションで別のメッセージを聞く場合には、その再生速度には影響しません。

電話のキーパッドを使用した個々のメッセージの再生速度の変更

手順

再生速度を調整するために押下するキーは、カンバセーションによって異なります。再生速度を変更するためにどのキーが割り当てられているかをシステム管理者に問い合わせてください。メッセージを再生中に、次の速度設定を使用します。

オプション	説明
減速キーを押す	メッセージを低速で再生します。
高速キーを一度押す	メッセージを高速で再生します。
高速キーをもう一度押す	メッセージをより高速で再生します。

ボイス コマンドを使用した個々のメッセージの再生速度の変更

手順

メッセージが再生されている間に、次のボイス コマンドを使用します。

アクション	コマンド
再生速度を下げる	「Slower」
再生速度を上げる	「Faster」
再生速度をリセットする	「Reset speed」

ヒント 再生速度は、メッセージが記録された速度、低速（1つ）、高速（2つ）の4つの速度があります。

Connection カンバセーションの再生音量の変更

Connection がプロンプトを再生している間に、いつでもボイス コマンドを使用して、Cisco Unity Connection カンバセーションの音量を変更できます（電話のキーパッドを使用して、カンバセーションの音量を調整することはできません）。

変更は電話を切るまで有効です。次回 Connection に発信すると、音量はデフォルト設定にリセットされます。

ボイス コマンドを使用したカンバセーション再生音量の変更

手順

プロンプトが再生されている間に、次のボイス コマンドを使用します。

アクション	コマンド
音量を変更する	「Louder」または「Softer」
再生音量をデフォルト設定にリセットする（一部のシステムでは使用不可）	「Reset volume」

Connection カンバセーションの再生速度の変更

Connection がプロンプトを再生している間に、いつでもボイス コマンドを使用して、Cisco Unity Connection カンバセーションの速度を変更できます（電話のキーパッドを使用して、カンバセーションの速度を調整することはできません）。

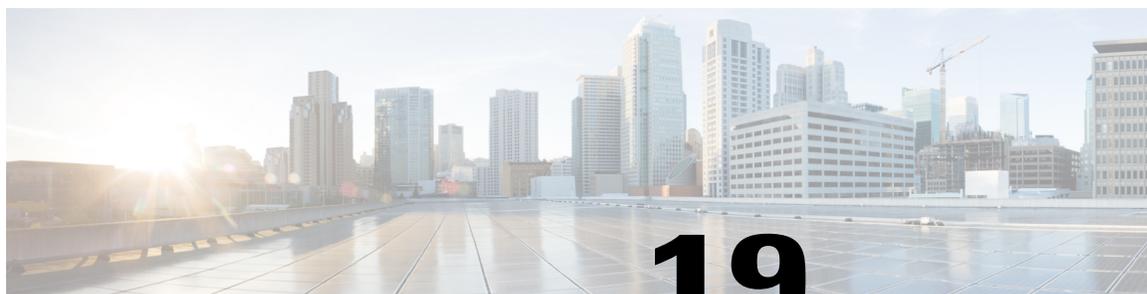
変更は電話を切るまで有効です。次回 Connection に発信すると、速度はデフォルト設定にリセットされます。

ボイス コマンドを使用したカンバセーション再生速度の変更

手順

プロンプトが再生されている間に、次のボイス コマンドを使用します。

アクション	コマンド
速度を変更する	「Slower」または「Faster」
再生速度をデフォルト設定にリセットする	「Reset speed」



第 19 章

ブロードキャスト メッセージ

- ・ [ブロードキャスト メッセージについて](#), 95 ページ

ブロードキャスト メッセージについて

社内の Cisco Unity Connection 管理者、ネットワーク管理者、経営者から、ブロードキャストメッセージと呼ばれるボイス メッセージを受信することがあります。ブロードキャストメッセージとは、社内の全員に送信される録音済みの通知です。たとえば、Connection 管理者がすべてのユーザに暗証番号を変更するよう求めるメッセージを送信したり、人事部長が新しい手当の締め切りについて案内するメッセージを送信したりできます。

ブロードキャストメッセージは、電話を使用して Connection にログインすると、すぐに再生されます。すべてのブロードキャストメッセージを完全に聞くまでは、Connection で新しいメッセージや保存されたメッセージを確認したり、設定オプションを変更したりすることはできません。ブロードキャストメッセージは、一度再生すると完全に削除されます。ブロードキャストメッセージに返信することはできず、ブロードキャストメッセージを保存することもできません。

ブロードキャストメッセージが届いても、電話機のメッセージインジケータは点灯しません（たとえば、ライトが点灯することも、受話器を取り上げたときに特別なダイヤルトーンが再生されることもありません）。

音声認識オプションを使用している場合、ボイスコマンドを使用してブロードキャストメッセージを削除することはできません。代わりに、メッセージの再生が終了すると、# を押すよう求められます。メッセージが削除されたら、引き続きボイスコマンドを使用して、他のメッセージを再生および管理することができます。



第 20 章

メールボックスのサイズの管理

- [メールボックス サイズについて, 97 ページ](#)
- [メールボックスがすぐに一杯になってしまう理由, 97 ページ](#)

メールボックス サイズについて

メールボックスが一杯になっていると、Cisco Unity Connection がメッセージを処理するスピードに影響を及ぼす場合があります。電話機を使用してログインするとき、メールボックスが次の状態の場合は、Connection によって通知されます。

- 間もなく一杯になる場合
- 一杯になり、新しいメッセージを送信できない場合
- 一杯になり、新しいメッセージを送受信できない場合

メールボックスの容量制限は、Connection 管理者により設定されます。これらの制限を超えると、メッセージの送受信ができなくなる場合があります。



(注) ブロードキャスト メッセージはメールボックス全体のサイズに含まれません。

メールボックスがすぐに一杯になってしまう理由

Cisco Unity Connection メールボックスが予想よりも速く一杯になっていると感じる場合には、次に示す理由が当てはまる場合があります（メールボックスのサイズは Connection 管理者によって指定されます）。

メッセージ保存ポリシーが適用されていない可能性がある

Connection のデフォルト設定では、一定の経過時間に達した場合にメッセージを自動的に削除することはありません。つまり、Connection 管理者がメッセージ保存ポリシーを適用するようにシ

システムを設定しない限りは、ユーザ自身が定期的に関済済メッセージを確認し、メッセージを移動、アーカイブ、または完全に削除することによって、メールボックスのサイズを管理する必要があります。

メッセージ保存ポリシーを適用するように Connection が設定されている場合は、Connection 管理者に、メッセージが完全に削除されるまでの期間を確認してください。これで、重要なメッセージのアーカイブや移動を前もって計画できます。Connection は、メッセージ保存ポリシーが適用されることを通知しません。また、このポリシーを実行した結果、メッセージが完全に削除されることも警告しません。

不達確認がメールボックス全体のサイズに含まれる

送信済メッセージの不達確認 (NDR) を受信した場合、特に元のメッセージに大きいファイルが添付されていると、メールボックスのサイズはすぐに大きくなります。

メッセージの転送時に元のメッセージがメッセージ全体のサイズに含まれる

何度も繰り返し転送されて、サイズが増えたメッセージを受信する場合があります。元のメッセージに、転送中に追加されたすべての録音済コメントを加えたサイズが、メッセージの合計サイズになります。そのため、保存されているメッセージの数が比較的少ない場合でも、メールボックスが制限を超える可能性があります。

合計メッセージサイズに添付ファイルが含まれる

スプレッドシート、ドキュメント、ファクス、および写真などの添付ファイルを含むメッセージを受信する可能性があります。この場合、メッセージにすべての添付ファイルを加えたサイズがメッセージの合計サイズになります。そのため、保存されているメッセージの数が比較的少ない場合でも、メールボックスが制限を超える可能性があります。



第 21 章

Cisco Unity Connection の電話メニューとボイスコマンド

- [電話メニューとボイス コマンドテーブルについて, 99 ページ](#)
- [標準カンバセーション用電話メニュー, 99 ページ](#)
- [クラシック カンバセーション用電話メニュー, 104 ページ](#)
- [オプション カンバセーション 1 用電話メニュー, 109 ページ](#)
- [代行キーパッド マッピング N 用電話メニュー, 114 ページ](#)
- [代行キーパッド マッピング X 用電話メニュー, 116 ページ](#)
- [代行キーパッド マッピング S 用電話メニュー, 119 ページ](#)
- [ボイス コマンド, 122 ページ](#)

電話メニューとボイス コマンド テーブルについて

このテーブルでは、電話でメッセージおよび個人用オプションを管理するために最も頻繁に使用されるボイス コマンド、メニュー、およびショートカットについて、Cisco Unity Connection のカンバセーションのバージョンごとに説明します。

どのカンバセーションバージョンを使うよう設定されているかについては、Connection の管理者に問い合わせてください。

標準カンバセーション用電話メニュー

- [メインメニューとショートカット \(標準カンバセーション\) , \(100 ページ\)](#)
- [メッセージ送信のメニューとショートカット \(標準カンバセーション\) , \(101 ページ\)](#)
- [メッセージ再生中のメニューとショートカット \(標準カンバセーション\) , \(101 ページ\)](#)

- メッセージ再生後のメニューとショートカット（標準カンパセッション）、（103 ページ）
- 録音メニュー（標準カンパセッション）、（104 ページ）

メインメニューとショートカット（標準カンパセッション）

改訂：2010年11月16日

メインメニューが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
新しいメッセージを再生する	1
メッセージを送信する	2
開封済みメッセージを確認する	3 1
削除済みメッセージを確認する (一部のシステムでは使用不可)	3 2
設定オプションを変更する	4
グリーティングを変更する	4 1
オプション グリーティングをオンまたはオフにする	4 1 2
他のグリーティングを編集する	4 1 3
メッセージ通知を変更する	4 2 1
ファクスの設定を変更する (一部のシステムでは使用不可)	4 2 2
標準ガイダンスまたは簡易ガイダンスを選択する	4 2 3
暗証番号を変更する	4 3 1
録音名を変更する	4 3 2
着信転送を変更する	4 4
Connection ユーザからのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 1
外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 2

アクション	キー
特定の外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 3
会議を再生する (一部のシステムでは使用不可)	6
外部メッセージを再生する (一部のシステムでは使用不可)	7
電話のキーパッドとボイス コマンドの使用を切り替える (Connection 8.5 以降) (一部のシステムでは使用不可)	9

メッセージ送信のメニューとショートカット (標準カンパセーション)

メッセージを録音し、宛先を指定した後、次のキーを押します。

アクション	キー
メッセージを送信する	#
名前を追加する	9 1
メッセージに緊急のマークを付ける	1
返信確認を要求する	2
メッセージにプライベートのマークを付ける	3
将来の配信を設定する	4
録音を確認する	5
再録音する	6
メッセージに追加する	7
メッセージをセキュアにする	9 3

メッセージ再生中のメニューとショートカット (標準カンパセーション)

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
最初からメッセージを再生する	1
番号でメッセージを再生する	1 2
前のメッセージを再生する	1 4
次のメッセージを再生する	1 6
保存する	2
削除する	3
返信する	4
全員に返信する	4 2
送信者に電話を返す	4 4
メッセージを転送する	5
再生速度を下げる	6 4
再生速度を上げる	6 6
音量を変更する (一部のシステムでは使用不可)	6 5
音量をリセットする (一部のシステムでは使用不可)	6 3
メッセージを巻き戻しする	7
一時停止/再開する	8
早送りする	9
最後まで早送りする	#
最初のメッセージを再生する	1 7
最後のメッセージを再生する	1 9
緊急ステータスを切り替える	1 8
メッセージをスキップし、開封済みメッセージとして保存/復元する	# 2

アクション	キー
(一部のシステムでは使用不可)	
メッセージをスキップし、未開封メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	6
メッセージをスキップして次のメッセージを聞く	##
印刷のためにファクスをファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	68
メッセージプロパティを再生する	15
キャンセルまたは戻る	*
ヘルプ	0

メッセージ再生後のメニューとショートカット (標準カンパセーション)

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

アクション	キー
再度メッセージを再生する	1
番号でメッセージを再生する	12
前のメッセージを再生する	14
次のメッセージを再生する	16
最初のメッセージを再生する	17
最後のメッセージを再生する	19
緊急ステータスを切り替える	18
開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	2
削除する	3
返信する	4
全員に返信する	42

アクション	キー
送信者に電話をかける (一部のシステムでは使用不可)	4 4
メッセージを転送する	5
未開封メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	6
巻き戻しをする	7
印刷のためにファクスをファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	6 8
メッセージプロパティを再生する	1 5
次のメッセージを聞く	#
キャンセルまたは戻る	*
ヘルプ	0

録音メニュー（標準カンパセーション）

メッセージ、名前、およびグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

アクション	キー
一時停止/再開する	8
録音を終了する	#

クラシックカンパセーション用電話メニュー

- [メインメニューとショートカット（クラシックカンパセーション）](#) , (105 ページ)
- [メッセージ送信のメニューとショートカット（クラシックカンパセーション）](#) , (106 ページ)
- [メッセージ再生中のメニューとショートカット（クラシックカンパセーション）](#) , (106 ページ)
- [メッセージ再生後のメニューとショートカット（クラシックカンパセーション）](#) , (108 ページ)

- [録音メニュー \(クラシックカンバセーション\)](#) , (109 ページ)

メインメニューとショートカット (クラシックカンバセーション)

改訂 : 2010 年 11 月 16 日

メインメニューが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
新しいメッセージを再生する	1
メッセージを送信する	2
開封済みメッセージを確認する	3 1
削除済みメッセージを確認する (一部のシステムでは使用不可)	3 2
設定オプションを変更する	4
グリーティングを変更する	4 1
オプション グリーティングをオンまたはオフにする	4 1 2
他のグリーティングを編集する	4 1 3
メッセージ通知を変更する	4 2 1
ファクスの設定を変更する (一部のシステムでは使用不可)	4 2 2
標準ガイダンスまたは簡易ガイダンスを選択する	4 2 3
暗証番号を変更する	4 3 1
録音名を変更する	4 3 2
着信転送を変更する	4 4
Connection ユーザからのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 1
外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 2
特定の外部発信者からのメッセージを検索する	5 3

アクション	キー
(一部のシステムでは使用不可)	
会議を再生する (一部のシステムでは使用不可)	6
外部メッセージを再生する (一部のシステムでは使用不可)	7
電話のキーパッドとボイス コマンドの使用を切り替える (Connection 8.5 以降) (一部のシステムでは使用不可)	9

メッセージ送信のメニューとショートカット (クラシックカンパセーション)

メッセージを録音し、宛先を指定した後、次のキーを押します。

アクション	キー
メッセージを送信する	#
名前を追加する	9 1
メッセージに緊急のマークを付ける	1
返信確認を要求する	2
メッセージにプライベートのマークを付ける	3
将来の配信を設定する	4
録音を確認する	5
再録音する	6
メッセージに追加する	7
メッセージをセキュアにする	9 3

メッセージ再生中のメニューとショートカット (クラシックカンパセーション)

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
最初からメッセージを再生する	1
番号でメッセージを再生する	1 2
前のメッセージを再生する	1 4
次のメッセージを再生する	1 6
保存する	2
削除する	3
再生速度を下げる	4
音量を変更する (一部のシステムでは使用不可)	5
再生速度を上げる	6
メッセージを巻き戻しする	7
一時停止/再開する	8
早送りする	9
最後まで早送りする	#
開封済みメッセージとして復元する (一部のシステムでは使用不可)	# 2
返信する	# 4
全員に返信する	# 4 2
メッセージを転送する	# 5
未開封メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	# 6
印刷のためにファクスをファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	# 8
メッセージ プロパティを再生する	# 9
メッセージをスキップして次のメッセージを聞く	# #

アクション	キー
キャンセルまたは戻る	*
ヘルプ	0

メッセージ再生後のメニューとショートカット（クラシックカンパセーション）

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

アクション	キー
再度メッセージを再生する	1
番号でメッセージを再生する	1 2
前のメッセージを再生する	1 4
次のメッセージを再生する	1 6
開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	2
削除する	3
返信する	4
全員に返信する	4 2
送信者に電話をかける (一部のシステムでは使用不可)	4 4
メッセージを転送する	5
未開封メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	6
巻き戻しをする	7
印刷のためにファクスをファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	8
メッセージプロパティを再生する	9
次のメッセージを聞く	#

アクション	キー
キャンセルまたは戻る	*
ヘルプ	0

録音メニュー（クラシック カンバセーション）

メッセージ、名前、およびグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

アクション	キー
一時停止/再開する	8
録音を終了する	#

オプションカンバセーション1用電話メニュー

- [メインメニューとショートカット（オプションカンバセーション1）](#) , (109 ページ)
- [メッセージ送信のメニューとショートカット（オプションカンバセーション1）](#) , (110 ページ)
- [メッセージ再生中のメニューとショートカット（オプションカンバセーション1）](#) , (111 ページ)
- [メッセージ再生後のメニューとショートカット（オプションカンバセーション1）](#) , (112 ページ)
- [録音メニュー（オプションカンバセーション1）](#) , (113 ページ)

メインメニューとショートカット（オプションカンバセーション1）

改訂：2010年11月16日

メインメニューが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
新しいメッセージを再生する	1
メッセージを送信する	2
開封済みメッセージを確認する	3 1
削除済みメッセージを確認する (一部のシステムでは使用不可)	3 2

アクション	キー
設定オプションを変更する	4
グリーティングを変更する	4 1
オプション グリーティングをオンまたはオフにする	4 1 2
メッセージ通知を変更する	4 2 1
ファクスの設定を変更する (一部のシステムでは使用不可)	4 2 2
標準ガイダンスまたは簡易ガイダンスを選択する	4 2 3
暗証番号を変更する	4 3 1
録音名を変更する	4 3 2
着信転送を変更する	4 4
Connection ユーザからのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 1
外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 2
特定の外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 3
会議を再生する (一部のシステムでは使用不可)	6
外部メッセージを再生する (一部のシステムでは使用不可)	7
電話のキーパッドとボイス コマンドの使用を切り替える (Connection 8.5 以降) (一部のシステムでは使用不可)	9

メッセージ送信のメニューとショートカット (オプションカンパセーション1)

メッセージの宛先を指定し、録音が完了した後に、次のキーを押します。

アクション	キー
メッセージを送信する	#
名前を追加する	9 1
メッセージに緊急のマークを付けて送信する	1 #
返信確認を要求して送信する	2 #
メッセージにプライベートのマークを付けて送信する	3 #
将来の配信を設定する	4
録音を確認する	5
再録音する	6
メッセージに追加する	7
メッセージをセキュアにする	9 3

メッセージ再生中のメニューとショートカット（オプションカンパセーション1）

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
巻き戻しをする	1
番号でメッセージを再生する	1 2
前のメッセージを再生する	1 4
次のメッセージを再生する	1 6
一時停止/再開する	2
早送りする	3
最後まで早送りする	3 3
印刷のためにファクスをファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	3 3 2
メッセージを転送する	3 3 6
メッセージを削除する	3 3 7

アクション	キー
返信する	3 3 8
全員に返信する	3 3 8 2
開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	3 3 9
再生速度を下げる	4
再生速度をさらに下げる	4 4
メッセージプロパティを再生する	5
再生速度を上げる	6
再生速度をさらに上げる	6 6
音量を下げる (一部のシステムでは使用不可)	7
音量をリセットする (一部のシステムでは使用不可)	8
音量を上げる (一部のシステムでは使用不可)	9
メッセージをスキップして次のメッセージを聞く	#
メッセージをスキップして、新規メッセージとして保存する (新規および開封済みメッセージ)	##
キャンセルまたは戻る	*
ヘルプ	0

メッセージ再生後のメニューとショートカット (オプションカンパセーション1)

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

アクション	キー
戻る	1
番号でメッセージを再生する	1 2

アクション	キー
前のメッセージを再生する	1 4
次のメッセージを再生する	1 6
印刷のためにファクスをファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	2
再度メッセージを再生する	4
メッセージプロパティを再生する	5
メッセージを転送する	6
削除する	7
返信する	8
全員に返信する	8 2
送信者に電話をかける (一部のシステムでは使用不可)	8 8
開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	9
次のメッセージを聞く	#
未開封メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	##
キャンセルまたは戻る	*
ヘルプ	0

録音メニュー (オプションカンパセーション1)

メッセージ、名前、およびグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

アクション	キー
一時停止/再開する	8
録音を終了する	#

代行キーパッド マッピング N 用電話メニュー

- [メインメニューとショートカット \(代行キーパッド マッピング N\)](#) , (114 ページ)
- [メッセージ再生中のメニューとショートカット \(代行キーパッド マッピング N\)](#) , (115 ページ)
- [メッセージ再生後のメニューとショートカット \(代行キーパッド マッピング N\)](#) , (115 ページ)
- [録音メニュー \(代行キーパッド マッピング N\)](#) , (116 ページ)

メインメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング N)

改訂 : 2010 年 11 月 16 日

メインメニューが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
新しいメッセージを再生する	1
メッセージを送信する	2
開封済みメッセージおよび削除済みメッセージを確認する (一部のシステムでは使用不可)	3
設定オプションを変更する	4
Connection ユーザからのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 1
外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 2
特定の外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 3
会議を再生する (一部のシステムでは使用不可)	6
電話のキーパッドとボイス コマンドの使用を切り替える (Connection 8.5 以降) (一部のシステムでは使用不可)	9
終了する	*

アクション	キー
メニューを繰り返す	#
メイン メニューのヘルプ	0

メッセージ再生中のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング N)

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
メッセージを巻き戻しする	1
早送りする	3
メッセージをスキップして次のメッセージを聞く	6
返信する	7 1
送信者に電話をかける (一部のシステムでは使用不可)	9
キャンセルまたは戻る	#
オペレータ	0

メッセージ再生後のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング N)

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

アクション	キー
巻き戻しをする	4
次のメッセージを聞く	6
送信者に電話をかける (一部のシステムでは使用不可)	9
メッセージプロパティを再生する	7 0
返信する	7 1
再度メッセージを再生する	7 2
メッセージを転送する	7 3

アクション	キー
全員に返信する	7 4
削除する	7 6
開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	7 7
未開封メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	7 8
キャンセルまたは戻る	*
オペレータ	0

録音メニュー (代行キーパッド マッピング N)

メッセージ、名前、およびグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

アクション	キー
一時停止/再開する	8
録音を終了する	#

代行キーパッド マッピング X 用電話メニュー

- [メインメニューとショートカット \(代行キーパッド マッピング X\)](#) , (116 ページ)
- [メッセージ再生中のメニューとショートカット \(代行キーパッド マッピング X\)](#) , (117 ページ)
- [メッセージ再生後のメニューとショートカット \(代行キーパッド マッピング X\)](#) , (118 ページ)
- [録音メニュー \(代行キーパッド マッピング X\)](#) , (118 ページ)

メインメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング X)

改訂: 2010 年 11 月 16 日

メインメニューが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
メッセージを送信する	1
新しいメッセージを再生する	2
開封済みメッセージおよび削除済みメッセージを確認する (一部のシステムでは使用不可)	3
設定オプションを変更する	5
Connection ユーザからのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	8 1
外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	8 2
特定の外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	8 3
電話のキーパッドとボイス コマンドの使用を切り替える (Connection 8.5 以降) (一部のシステムでは使用不可)	9
終了する	*
メニューを繰り返す	#
メイン メニューのヘルプ	0

メッセージ再生中のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング X)

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
メッセージ本文までスキップする	2
一時停止/再開する	3
音量を上げる (一部のシステムでは使用不可)	4
メッセージを巻き戻しする	5
早送りする	6

アクション	キー
音量を下げる (一部のシステムでは使用不可)	7
再生速度を下げる	8
再生速度を上げる	9
メッセージの最後まで早送りする	#

メッセージ再生後のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング X)

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

アクション	キー
開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	1
番号でメッセージを再生する	1 2
前のメッセージを再生する	1 4
次のメッセージを再生する	1 6
メッセージを転送する	2
再度メッセージを再生する	2 3
削除する	3
未開封メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	4
巻き戻しをする	5
次のメッセージを聞く	6
返信する	7
キャンセルまたは戻る	#

録音メニュー (代行キーパッド マッピング X)

メッセージ、名前、およびグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

アクション	キー
一時停止/再開する	8
録音を終了する	#

代行キーパッド マッピング S 用電話メニュー

- [メインメニューとショートカット \(代行キーパッド マッピング S\)](#) , (119 ページ)
- [メッセージ再生中のメニューとショートカット \(代行キーパッド マッピング S\)](#) , (120 ページ)
- [メッセージ再生後のメニューとショートカット \(代行キーパッド マッピング S\)](#) , (120 ページ)
- [録音メニュー \(代行キーパッド マッピング S\)](#) , (121 ページ)

メインメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング S)

改訂 : 2010 年 11 月 16 日

メインメニューが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
電話のキーパッドとボイス コマンドの使用を切り替える (Connection 8.5 以降) (一部のシステムでは使用不可)	1
開封済みメッセージおよび削除済みメッセージを確認する (一部のシステムでは使用不可)	3
設定オプションを変更する	4
新しいメッセージを再生する	5
メッセージを送信する	6
Connection ユーザからのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	8 1
外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	8 2
特定の外部発信者からのメッセージを検索する	8 3

アクション	キー
(一部のシステムでは使用不可)	
終了する	9
メニューを繰り返す	#
メイン メニューのヘルプ	0

メッセージ再生中のメニューとショートカット（代行キーパッド マッピング S）

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
メッセージを転送する	13
送信者に電話をかける (一部のシステムでは使用不可)	14
前のメッセージを再生する	15
返信する	17
メッセージを巻き戻しする	2
メッセージ本文をスキップする	22
削除する	3
早送りする	4
メッセージをスキップして次のメッセージを聞く	5
開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	7
メッセージ フッターまでスキップする	8
メッセージの最後まで早送りする	#
一時停止/再開する	*

メッセージ再生後のメニューとショートカット（代行キーパッド マッピング S）

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

アクション	キー
メッセージを転送する	1 3
前のメッセージを再生する	1 5
返信する	1 7
メッセージを巻き戻しする	2
再度メッセージを再生する	2 2
削除する	3
全員に返信する	4 2
送信者に電話をかける (一部のシステムでは使用不可)	4 4
次のメッセージを聞く	5
未開封メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	6
開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	7
印刷のためにファクスをファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	8
メッセージプロパティを再生する	9
キャンセルまたは戻る	*

録音メニュー (代行キーパッド マッピング S)

メッセージ、名前、およびグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

アクション	キー
一時停止/再開する	8
録音を終了する	#

ボイス コマンド

この表では、音声認識入力方法を使用している場合に、次のメニューに対応するボイス コマンドおよび該当するキーを一覧表示します。

- [メインメニュー \(ボイス コマンド\)](#) , (122 ページ)
- [メッセージ送信のメニュー \(ボイス コマンド\)](#) , (124 ページ)
- [メッセージ再生中のメニュー \(ボイス コマンド\)](#) , (125 ページ)
- [会議リマインダ中のメニュー \(ボイス コマンド\)](#) , (126 ページ)
- [メッセージ再生後のメニュー \(ボイス コマンド\)](#) , (127 ページ)
- [ユニバーサルアクション \(ボイス コマンド\)](#) , (128 ページ)

メインメニュー (ボイス コマンド)

選択コマンドについては、ボイスコマンドをオフにせずに、対応するキーを押します。利用可能なコマンドおよび対応するキーについては、**Connection** 管理者に問い合わせるか、「Touchtone command Help」と発音します。



(注) Cisco Unity Connection 10.0(1) 以降では、「message」または「messages」を含むボイス コマンドが同じように機能します。次の例を参考にしてください。

- 「Play message」または「Play messages」
- 「Play external message」または「Play external messages」

メインメニューが再生されている間に、次を発音します。

アクション	ボイス コマンド
ボイス コマンドのチュートリアルを再生する	「Tutorial」
ボイス メッセージ、電子メール、ファクス*、外部メッセージ*、受信確認、会議*を再生する (*一部のシステムでは使用不可)	「Play <voice messages/voice message/e-mails/faxes/external messages/receipts/meetings>」
すべての新規メッセージを再生する	「Play new messages」
すべてのメッセージを再生する (新しいメッセージおよび開封済みメッセージ)	「Play all messages」

アクション	ボイス コマンド
Connection ユーザからの新しいボイス メッセージ、開封済みボイス メッセージ、または削除されたボイス メッセージを再生する	「Play <new/saved/deleted> messages from <name of user>」 または「Play <new/saved/deleted> message from <user name>」
ボイス メッセージを送信する	「Send a message」
開封済みボイス メッセージ、電子メール、ファクス*、外部メッセージ*、受信確認を再生する (*一部のシステムでは使用不可)	「Play saved <voice messages/voice message/e-mails/faxes/external messages/receipts>」
すべての開封済みメッセージを再生する	「Play saved messages」
削除済みボイス メッセージ、電子メール、ファクス*、外部メッセージ**、受信確認を再生する (*一部のシステムでは使用不可)	「Play deleted <voice messages/ voice message/e-mails/faxes/external messages/receipts>」
削除済みメッセージをすべて再生する (一部のシステムでは使用不可)	「Play deleted messages」
すべてのグリーティングを再生する	「Play all greetings」
特定のグリーティングを再生する	「Play <greeting name> greeting」
標準グリーティングを再生する	「Play my greeting」
新しいグリーティングを録音する	「Record <greeting name> greeting」
標準グリーティングを録音する	「Record my greeting」
グリーティングをオンまたはオフにする	「Turn on <greeting name> greeting」 「Turn off <greeting name> greeting」
システム デフォルト グリーティングを使用する	「Use default <greeting name> greeting」
標準グリーティングとしてシステム デフォルト グリーティングを使用する	「Use my default greeting」
グリーティングを使用せず、発信者にはメッセージを残すように合図する発信音だけを再生する	「Play nothing for my <greeting name> greeting」
グリーティング メニューのヘルプを再生する	「Greetings Help」
暗証番号を変更する	「Change my PIN」

アクション	ボイス コマンド
ディレクトリ登録のステータスを再生する	「Get my directory listing status」
ディレクトリ登録のステータスを変更する。	「List my number in the directory」 「Do not list my number in the directory」
録音名を再生する	「Play my recorded name」
録音名を変更する	「Change my recorded name」
特定の日付の会議を再生する (一部のシステムでは使用不可)	「Play meetings on <date>」
一時的に電話のキーパッドの使用に切り替える	「Touchtone conversation」
Connection ユーザに発信する	「Call <name of user>」 「Call <extension>」
連絡先または管理者が定義した連絡先に発信する	「Call <contact name> at <home/work/mobile>」
削除済みアイテム フォルダにあるすべてのメッセージを完全に削除する	「Empty Deleted Items folder」

メッセージ送信のメニュー (ボイス コマンド)

選択コマンドについては、ボイス コマンドをオフにせずに、対応するキーを押します。利用可能なコマンドおよび対応するキーについては、Connection 管理者に問い合わせるか、「Touchtone command Help」と発音します。

ボイス メッセージの宛先を指定し、録音が完了した後に、次のボイス コマンドを発音します。

アクション	ボイス コマンド
メッセージを送信する	「Send」
録音を編集する	「Change recording」
メッセージのプロパティを確認する	「Review message properties」
受信者を編集する	「Edit recipients」
メッセージに緊急のマークを付ける	「Set urgent」
メッセージの緊急設定を解除する	「Cancel urgent」

アクション	ボイス コマンド
メッセージにプライベートのマークを付ける メッセージのプライベート設定を解除する	「Set private」 「Cancel private」
メッセージに緊急およびプライベートのマークを付ける	「Set urgent and private」
メッセージに受信確認を設定する メッセージの受信確認を解除する	「Set return receipt」 「Cancel return receipt」
将来の日時に Connection からメッセージを配信する	「Future delivery」
将来の配信をキャンセルする	「Cancel future delivery」
受信者を追加する	「Add names」
録音されたメッセージおよびメッセージ プロパティを確認する	「Review message」

メッセージ再生中のメニュー（ボイス コマンド）

改訂：2010年11月16日

選択コマンドについては、ボイス コマンドをオフにせずに、対応するキーを押します。利用可能なコマンドおよび対応するキーについては、Connection 管理者に問い合わせるか、「Touchtone command Help」と発音します。

メッセージが再生されている間に、次のボイス コマンドを発音します。

アクション	ボイス コマンド
最初からメッセージを再生する	「Repeat」 または「Repeat Message」
前のメッセージを再生する	「Previous」
次のメッセージを再生する	「Next」
メッセージを保存する	「Save」
削除する	「Delete」
返信する	「Reply」 または「Reply Message」
全員に返信する	「Reply all」

アクション	ボイス コマンド
メッセージを転送する	「Forward」
未開封メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	「Mark new」
メッセージプロパティを再生する	「Message properties」
再生速度を下げる	「Slower」
音量を変更する (一部のシステムでは使用不可)	「Louder」 または 「Softer」
再生速度を上げる	「Faster」
メッセージを巻き戻しする	「Jump back」
最後まで早送りする	「Skip forward」
一時停止/再開する	「Pause」 または 「Resume」
早送りする	「Jump ahead」
再生速度をリセットする	「Reset speed」
再生音量をリセットする	「Reset volume」
メッセージ受信者を一覧表示する (Connection 8.5 以降)	「List recipients」

会議リマインダ中のメニュー (ボイス コマンド)

選択コマンドについては、ボイスコマンドをオフにせずに、対応するキーを押します。利用可能なコマンドおよび対応するキーについては、Connection 管理者に問い合わせるか、「Touchtone command Help」と発音します。

会議リマインダが再生されている間に、次のボイス コマンドを発音します。

アクション	ボイス コマンド
会議に参加する	「Join」
参加者のリストを再生する	「List participants」
会議開催者に送信するメッセージを録音する	「Send message to organizer」

アクション	ボイス コマンド
会議参加者に送信するメッセージを録音する	「Send message to participants」
次の会議リマインダに関する情報を再生する	「Next」
前の会議リマインダに関する情報を再生する	「Previous」
会議への招待を受け入れる	「Accept」
会議への招待を拒否する	「Decline」
会議をキャンセルする（会議開催者に限る）	「Cancel meeting」



(注) このメニューのボイス コマンドは、カレンダー統合を使用している場合にだけ動作します。

メッセージ再生後のメニュー（ボイス コマンド）

改訂：2010年11月16日

選択コマンドについては、ボイスコマンドをオフにせずに、対応するキーを押します。利用可能なコマンドおよび対応するキーについては、Connection 管理者に問い合わせるか、「Touchtone command Help」と発音します。

メッセージが再生された後に、次のボイス コマンドを発音します。

アクション	ボイス コマンド
再度メッセージを再生する	「Repeat」
前のメッセージを再生する	「Previous」
次のメッセージを再生する	「Next」
開封済みメッセージとして保存/復元する	「Save」
削除する	「Delete」
返信する	「Reply」
全員に返信する	「Reply all」
元のメッセージを再送する（NDR に限る）	「Resend」
送信者に電話をかける （一部のシステムでは使用不可）	「Call sender」

アクション	ボイス コマンド
メッセージを転送する	「Forward」
未開封メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	「Mark new」
メッセージを巻き戻しする	(コマンドは利用できません)
元のメッセージを再生する (NDR に限る)	「Play original message」
メッセージ プロパティを再生する	「Message properties」
メッセージ受信者を一覧表示する (Connection 8.5 以降)	「List recipients」

ユニバーサル アクション (ボイス コマンド)

改訂: 2010 年 11 月 16 日

選択コマンドについては、ボイス コマンドをオフにせずに、対応するキーを押します。利用可能なコマンドおよび対応するキーについては、Connection 管理者に問い合わせるか、「Touchtone command Help」と発音します。

次のコマンドは、どの時点でも使用できます。

アクション	ボイス コマンド
キャンセルまたは戻る	「Cancel」
ボイス コマンドのヘルプ	「Help」
電話のキーパッドのヘルプ	「Touchtone command Help」
メイン メニューに戻る	「Main menu」
コールまたはボイスメール システムを終了する	「End call」 「Goodbye」
メッセージまたはメニュー オプションを繰り返す	「Repeat」
再生速度を変更する	「Faster」 または 「Slower」
再生音量を変更する (一部のシステムでは使用不可)	「Louder」 または 「Softer」
再生速度をデフォルト設定にリセットする	「Reset speed」
再生音量をデフォルト設定にリセットする	「Reset volume」

アクション	ボイス コマンド
(一部のシステムでは使用不可)	
一時停止/再開する	「Pause」または「Resume」



索引

C

- Cisco Unified MeetingPlace での即時会議の開始 [41](#)
- Connection へのアクセス [7](#)
- Connection へのコール [7](#)
- Connection へのサインイン [7](#)
- Connection へのすべての着信の転送のキャンセル [88](#)

N

- NDR。参照先：[不達確認](#)

P

- Phone View オプション [23](#)

あ

- 宛先指定優先リスト [65](#)
 - 概要 [65](#)
 - 変更 [65](#)
- 暗証番号、変更 [67](#)

い

- 一覧表示 [39](#)
 - 予定されている会議 [39](#)

お

- オプションカンバセーション1、電話メニューとショートカット [109](#)

- オプション グリーティング [44, 46](#)
 - オン/オフの切り替え [46](#)
 - 概要 [44](#)

- オプション転送ルール、概要 [75](#)
- オフに切り替え [46, 47, 55](#)
 - オプション グリーティング [46](#)
 - グリーティング [47](#)
 - デバイスへの通知 [55](#)
- オンに切り替え [46, 47, 55](#)
 - オプション グリーティング [46](#)
 - グリーティング [47](#)
 - デバイスへの通知 [55](#)

- 音量 [91, 93](#)
 - 再生、カンバセーションの変更 [93](#)
 - 再生、個々のメッセージの変更 [91](#)

か

- 会議 [39, 41](#)
 - Unified MeetingPlace での即時会議の開始 [41](#)
 - 管理、概要 [39](#)
 - 予定の一覧表示 [39](#)
 - 開封確認、概要 [17](#)
 - 確認 [10, 30](#)
 - 削除済みメッセージ [30](#)
 - メッセージ [10](#)
 - 間接コール、概要 [75](#)
 - カンバセーション [3, 4, 73, 93, 94](#)
 - 概要 [3](#)
 - キーパッドの使用 [4](#)
 - 再生音量の変更 [93](#)
 - 再生速度、変更 [94](#)
 - ボイス コマンドの使用 [4](#)
 - メニュー スタイル、概要 [73](#)
 - メニュー スタイル、変更 [73](#)

管理 [17, 33, 39](#)会議、概要 [39](#)受信確認 [17](#)ディスプレイメッセージ [33](#)

き

緊急連絡先番号 [79](#)概要 [79](#)変更 [79](#)

く

クラシックカンバセーション、電話メニューとショートカット [104](#)グリーティング [43, 44, 45, 46, 47, 49, 50, 51](#)オプション [44](#)オプション、オンまたはオフ [46](#)オン/オフの切り替え [47](#)概要 [43](#)現在のグリーティングの再録音 [45](#)時間外 [43](#)システム、概要 [47](#)祝日 [45](#)すべて再生 [49](#)ソース [47](#)ソースの変更 [47](#)通話中 [44](#)デフォルト以外の言語での録音 [50](#)内線 [44](#)ビデオ [51](#)標準 [43](#)複数の言語の管理 [43](#)録音 [47](#)グリーティングのソース [47](#)

け

言語 [43, 50](#)追加の言語のグリーティングの録音 [50](#)複数の言語のグリーティングの管理 [43](#)現在のグリーティング、再録音 [45](#)現在のグリーティングの再録音 [45](#)

こ

コール [75](#)間接、概要 [75](#)直接、概要 [75](#)

さ

再生の設定、概要 [91](#)削除 [29, 61, 63, 70](#)代行用デバイス [70](#)プライベート同報リスト [63](#)プライベート同報リストからのメンバーの削除 [61](#)メッセージの完全削除 [29](#)削除済みメッセージ [29, 30](#)概要 [29](#)確認 [30](#)完全削除 [29](#)

し

時間外グリーティング、概要 [43](#)時間外転送ルール、概要 [76](#)システムグリーティング、概要 [47](#)祝日グリーティング、概要 [45](#)受信確認 [17](#)管理 [17](#)タイプ [17](#)受信確認のタイプ [17](#)使用 [4](#)電話のキーパッド [4](#)ボイスコマンド [4](#)ショートカット [99, 104, 109, 114, 116, 119](#)オプションカンバセーション1 [109](#)クラシックカンバセーション [104](#)代行キーパッドマッピング (N) [114](#)代行キーパッドマッピング (S) [119](#)代行キーパッドマッピング (X) [116](#)標準カンバセーション [99](#)初回登録、概要 [1](#)

す

すべて転送ルールセット [86](#)概要 [86](#)

すべて転送ルールセット (続き)

有効化または無効化 [86](#)

すべてのグリーティングの再生 [49](#)

そ

送信確認、概要 [17](#)

速度 [92, 94](#)

再生、カンバセーションの変更 [94](#)

再生、個々のメッセージの変更 [92](#)

た

代行キーパッド マッピング [114, 116, 119](#)

N 用電話メニューとショートカット [114](#)

S 用電話メニューとショートカット [119](#)

X 用電話メニューとショートカット [116](#)

代行用デバイス、追加または削除 [70](#)

ち

着信 [88](#)

Connection へのすべての転送のキャンセル [88](#)

すべてを Connection に転送 [88](#)

着信転送ルール [75, 76](#)

概要 [75](#)

設定の変更 [76](#)

直接コール、概要 [75](#)

つ

追加 [61, 65, 70](#)

宛先指定優先リストの名前 [65](#)

代行用デバイス [70](#)

プライベート同報リストへのメンバーの追加 [61](#)

プライベート同報リストへのリモート連絡先の追加 [61](#)

通知 [55, 56, 95](#)

オン/オフの切り替え [55](#)

概要 [55](#)

電話番号の変更 [56](#)

ブロードキャスト メッセージ [95](#)

通話中グリーティング、概要 [44](#)

て

ディスパッチ メッセージ [33](#)

応答 [33](#)

概要 [33](#)

ディレクトリ、登録ステータスの変更 [69](#)

転送 [15, 88](#)

関連項目：[着信転送ルール](#)

すべての着信の Connection への転送 [88](#)

メッセージ [15](#)

関連項目：[着信転送ルール](#)

転送されたメッセージ、メールボックスサイズへの影響 [98](#)

添付ファイル、メールボックス サイズへの影響 [98](#)

電話のキーパッド、使用 [4](#)

電話番号、通知の変更 [56](#)

電話メニュー [99, 104, 114, 116, 119](#)

クラシック カンバセーション [104](#)

代行キーパッド マッピング (N) [114](#)

代行キーパッド マッピング (S) [119](#)

代行キーパッド マッピング (X) [116](#)

標準カンバセーション [99](#)

電話メニュー：[109](#)

オプション カンバセーション 1 [109](#)

と

同報リスト、ディスパッチ メッセージへの応答 [33](#)

登録、概要 [1](#)

な

内線グリーティング、概要 [44](#)

名前。参照先：[録音名またはユーザの別名](#)

に

入力方法、概要 [3](#)

は

パーソナル着信転送ルールセット [81, 82, 83, 84](#)

概要 [81](#)

基本転送ルールにおける有効化および無効化 [82](#)

個々の有効化および無効化 [84](#)

パーソナル着信転送ルールセット (続き)

使用の有効化および無効化 [83](#)

発信 [37](#)

ボイス コマンドによる発信 [37](#)

ひ

標準カンバセーション、電話メニューとショートカット [99](#)

標準グリーティング、概要 [43](#)

標準転送ルール、概要 [75](#)

ふ

不達確認 [17, 98](#)

概要 [17](#)

メールボックス サイズへの影響 [98](#)

プライベート同報リスト [59, 61, 62, 63](#)

概要 [59](#)

削除 [63](#)

作成 [59](#)

メンバーの変更 [61](#)

リモート連絡先の追加 [61](#)

録音名の変更 [62](#)

プライベート同報リストの作成 [59](#)

プライベート同報リストのメンバーの確認 [61](#)

ブロードキャスト メッセージ、概要 [95](#)

プロンプト、概要 [3](#)

へ

変更 [47, 56, 61, 62, 65, 67, 68, 69, 70, 73, 76, 79, 92, 93, 94](#)

宛先指定優先リスト [65](#)

暗証番号 [67](#)

カンバセーションの再生音量 [93](#)

カンバセーションの再生速度 [94](#)

カンバセーションメニュー スタイル [73](#)

緊急連絡先番号 [79](#)

グリーティングのソース [47](#)

グリーティングの録音 [47](#)

個々のメッセージの再生速度 [92](#)

代行用デバイス [70](#)

着信転送ルールの設定 [76](#)

通知先電話番号 [56](#)

ディレクトリ登録ステータス [69](#)

プライベート同報リストのメンバー [61](#)

変更 (続き)

プライベート同報リストの録音名 [62](#)

録音名 [68](#)

変更：個々のメッセージの再生音量 [91](#)

ほ

ボイス コマンド [4, 37, 122](#)

使用 [4](#)

チュートリアル [4](#)

電話の発信 [37](#)

リスト [122](#)

ボイス コマンドによる電話の発信 [37](#)

ボイス コマンドによる電話の発信、説明 [37](#)

ボイス コマンドのチュートリアル [4](#)

ボイス メッセージ [8](#)

送信 [8](#)

ボイス メッセージの送信 [8](#)

む

無効化 [82, 83, 84, 86](#)

基本着信転送ルールにおけるパーソナル着信転送ルールセットの使用 [82](#)

個々のパーソナル着信転送ルールセット [84](#)

すべて転送ルールセット [86](#)

パーソナル着信転送ルールセットの使用 [83](#)

め

メールボックス [97](#)

一杯になる理由 [97](#)

一杯の通知 [97](#)

サイズ、概要 [97](#)

メールボックスが一杯 [97](#)

通知 [97](#)

理由 [97](#)

メッセージ [10, 13, 15, 21, 23, 26, 29, 30, 33, 91, 92, 95](#)

Phone View オプションを使用した検索 [23](#)

確認 [10](#)

完全削除 [29](#)

個々の再生音量の変更 [91](#)

個々の再生速度の変更 [92](#)

削除済みメッセージについて [29](#)

削除済みメッセージの確認 [30](#)

メッセージ (続き)

- ディスパッチへの応答 [33](#)

- 転送 [15](#)

- ブロードキャスト、概要 [95](#)

- 返信 [13](#)

- メッセージ ジャンプ オプションを使用した検索 [26](#)

- メッセージ ロケータ オプションを使用した検索 [21](#)

- メッセージ ジャンプ オプション [26](#)

- メッセージの検索 [21, 23, 26](#)

- Phone View オプション [23](#)

- 概要 [21](#)

- メッセージ ジャンプ オプション [26](#)

- メッセージ ロケータ オプション [21](#)

- メッセージへの返信 [13](#)

- メッセージ保存ポリシー、メールボックス サイズへの影響 [97](#)

- メッセージ ロケータ オプション [21](#)

- メニュー スタイル、変更 [73](#)

ゆ

- 有効化 [82, 83, 84, 86](#)

- 基本転送ルールにおけるパーソナル着信転送ルールセットの使用 [82](#)

- 個々のパーソナル着信転送ルールセット [84](#)

- すべて転送ルールセット [86](#)

- パーソナル着信転送ルールセットの使用 [83](#)

- ユーザ設定 [67, 68, 69](#)

- 暗証番号、変更 [67](#)

- 概要 [67](#)

- ディレクトリ登録ステータス、変更 [69](#)

- ユーザ設定 (続き)

- 録音名、変更 [68](#)

- ユーザ、登録 [2](#)

- ユーザとしての登録 [2](#)

よ

- 予定 [39](#)

- 管理、概要 [39](#)

- 予定の一覧表示 [39](#)

- 予定表 [39](#)

- 会議の管理、概要 [39](#)

- 予定されている会議の一覧表示 [39](#)

り

- リモート連絡先、プライベート同報リストへの追加 [61](#)

る

- ルールセット。参照先：[パーソナル着信転送ルールセット](#)

ろ

- 録音 [47, 50](#)

- デフォルト以外の言語でのグリーティング [50](#)

- デフォルト言語でのグリーティング [47](#)

- 録音名、変更 [68](#)

